

勝央町内遺跡

試掘確認調査報告書

(平成18年度～平成20年度)

2010年3月

岡山県
勝央町教育委員会

勝央町内遺跡

試掘確認調査報告書

(平成18年～平成20年)

2010年3月

岡山県
勝央町教育委員会

序 文

勝央町は豊かな自然環境にあって古来より人々の生活が営まれ、およそ1万2千年前の縄文時代草創期に始まり、江戸時代の宿場町として栄えるなど、800箇所を超す遺跡が確認されており、現在まで豊かな歴史・文化を育んできました。

本書は平成18年度から平成20年度に実施した町内遺跡の試掘・確認調査の報告書です。調査は遺跡の有無や広がり、遺跡の性格を把握することを目的としたもので、限られた範囲の調査ではありますが、私達の先人が残した遺構や遺物などは、これらを地道に積み重ねることによって、町の歴史を構築する上での貴重な財産になると考えています。

本書が勝央町の歴史を理解するための一助となり、また広く一般の方々の文化財に対する理解と関心を高める上で役立てば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び本書の作成にご協力いただいた方々をはじめ、ご支援・ご協力を賜りました関係者各位に心より御礼申し上げます。

平成22年3月

勝央町教育委員会

教育長 竹 久 保

例 言

1. 本書は勝央町が平成21年度国庫補助事業として実施した勝央町内遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書には平成18年度から平成20年度までの3ヶ年、国の補助金を得て実施した試掘・確認調査の成果を掲載している。
3. 調査および報告書作成は勝央町教育委員会教育振興部が行い、調査および本書の執筆編集は勝央町教育委員会教育振興部 園 正雄が担当した。
4. 調査・報告書作成の体制

発掘調査体制

年度	名称	教育長	総括参事	参事	参事補	担当	備考
18	教育振興部	岸本耕二	光石和廣		小村勝彦	園 正雄	

年度	名称	教育長	総括参事	参事	参事補	担当	備考
19	教育振興部	岸本耕二	光石和廣	小村勝彦	植月 弘	園 正雄	

年度	名称	教育長	総括参事	参事	参事補	担当	備考
20	教育振興部	岸本耕二		小村勝彦	厨子一久	園 正雄	

報告書作成体制

年度	名称	教育長	総括参事	参事	参事補	担当	備考
21	教育振興部	竹久 保	小村勝彦	厨子一久		園 正雄	

5. 本報告にかかる遺物・写真・図面は勝央町教育委員会で保管している。
6. 発掘調査および本報告書作成に際して、地権者、調査参加者を初め、多くの方々にご協力を頂きました。

凡 例

1. 本書に示す標高値は東京湾標準潮位(T.P.)を基とし、標高値の無いものは任意のレベルを基準にしたもので、土層断面図の水準線は同一レベルを示す。
2. 本書に使用した調査位置図は、勝央町教育委員会が平成15年3月に発行した『勝央町遺跡地図』を複製したものである。また、トレンチ位置図は、勝央町都市計画地図を複製使用したものである。
3. 方位については調査位置図とトレンチ位置図が真北、トレンチ平面図は磁北を指す。
4. 本書における遺構および遺物実測図の縮尺については明記しているが、主なものは以下のとおりである。
トレンチ平面・断面図 (1/100、1/200) 遺物：土器・石器 (1/4)
5. 本書に掲載した土器の断面については、白抜きが弥生土器や土師質の土器、黒塗りが須恵器・須恵質の土器、網入りが瓦質土器を示している。

本文目次

序文

例言・凡例

目次

第1章 地理的・歴史的環境	1
第2章 調査の経緯と経過	3
第1節 勝央町の概要と調査の経緯	3
第2節 平成18年度～平成20年度の調査について	3
第3章 埋蔵文化財試掘・確認調査の概要	5
第1節 平成18年度（2006年度）実施の調査成果	5
1. 土居遺跡確認調査（H18-1）	5
2. 家ノ下散布地確認調査（1次）（H18-2）	6
3. 土居遺跡確認調査（H18-3）	8
4. 八幡散布地確認調査（H18-4）	9
5. 上河原散布地確認調査（H18-5）	9
第2節 平成19年度（2007年度）実施の調査成果	12
1. 中核工業団地内A地点遺跡確認調査（H19-1）	12
2. 石仏上遺跡確認調査（H19-2）	12
3. 金仙寺散布地確認調査（H19-3）	14
4. 土居遺跡確認調査（H19-4）	16
5. 舞台裏遺跡確認調査（H19-5）	17
6. 家ノ下遺跡確認調査（2次）（H19-6）	18
7. 藤ヶ瀬遺跡確認調査（H19-7）	19
第3節 平成20年度（2008年度）実施の調査成果	22
1. 三反田散布地試掘調査（H20-1）	22
2. 榎土居散布地確認調査（H20-2）	23
3. 前高下散布地確認調査（H20-3）	24
4. 大澤散布地確認調査（H20-4）	26
5. 平坊散布地試掘調査（H20-5）	27
6. 藤ヶ瀬遺跡確認調査（H20-6）	28
7. 天王散布地確認調査（H20-7）	30

写真図版目次

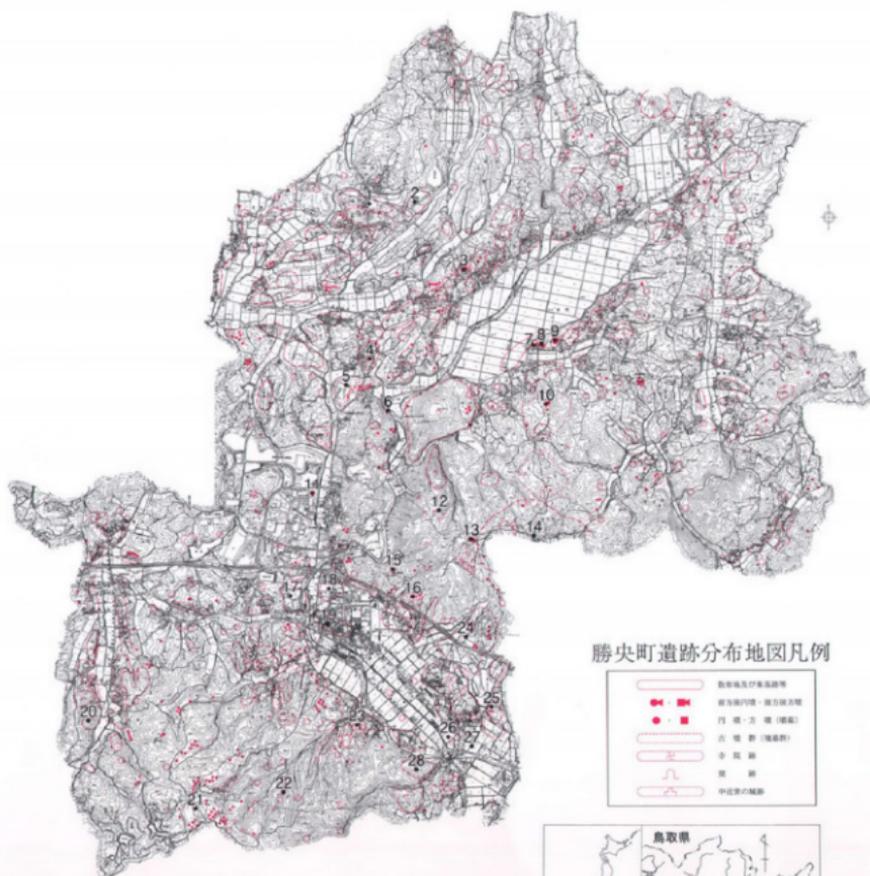
- 図版1-1 土居遺跡 (18-1) 遠景 (西から)
 -2 土居遺跡 (18-1) T1 (東から)
 -3 家ノ下散布地 遠景 (南から)
 -4 家ノ下散布地 T1 (南から)
 -5 家ノ下散布地 T2 (東から)
 -6 家ノ下散布地 T3 (東から)
 -7 家ノ下散布地 T4 (南から)
 -8 家ノ下散布地 T5 (北から)
- 図版2-1 土居遺跡 (H18-3) 遠景 (北から)
 -2 土居遺跡 (H18-3) T1 (北から)
 -3 土居遺跡 (H18-3) T2 (東から)
 -4 土居遺跡 (H18-3) T3 (南から)
 -5 土居遺跡 (H18-3) T4 (西から)
 -6 八幡散布地 遠景 (西から)
 -7 八幡散布地 トレンチ (南から)
 -8 上河原散布地 遠景 (西から)
- 図版3-1 上河原散布地 T1 (南から)
 -2 上河原散布地 T2 (南から)
 -3 上河原散布地 T3 (南から)
 -4 上河原散布地 T4 (西から)
 -5 中核工業団地内A地点 遠景 (西から)
 -6 中核工業団地内A地点 トレンチ (西から)
 -7 石仏上遺跡 調査前風景 (東から)
 -8 石仏上遺跡 T4 (南から)
- 図版4-1 石仏上遺跡 T5 (南から)
 -2 金仙寺散布地 遠景 (東から)
 -3 金仙寺散布地 T1 (南から)
 -4 金仙寺散布地 T2 (北から)
 -5 土居遺跡 (H19-4) 遠景 (西から)
 -6 土居遺跡 (H19-4) T1 (西から)
 -7 土居遺跡 (H19-4) T2 (東から)
 -8 土居遺跡 (H19-4) T3 (東から)
- 図版5-1 舞台裏遺跡 T1 (南から)
 -2 舞台裏遺跡 T2 (南から)
 -3 舞台裏遺跡 T3 (南から)
 -4 家ノ下散布地 T6 (南から)
 -5 家ノ下散布地 T7 (南から)
 -6 藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) 遠景 (東から)
 -7 藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T1 (南から)
 -8 藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T2 (東から)
- 図版6-1 藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T3 (東から)
 -2 藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T4 (東から)
 -3 藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T6 (東から)
 -4 藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T7 (東から)
 -5 三反田散布地 遠景 (西から)
 -6 三反田散布地 T1 (北から)
 -7 三反田散布地 T2 (北から)
 -8 三反田散布地 T3 (北から)
- 図版7-1 三反田散布地 T4 (東から)
 -2 榎土居散布地 T1 (南から)
 -3 榎土居散布地 T2 (南から)
 -4 榎土居散布地 T3 (南から)
 -5 前高下散布地 T2付近遠景 (東から)
 -6 前高下散布地 T1 (西から)
 -7 前高下散布地 T2 (東から)
 -8 前高下散布地 T3付近遠景 (東から)
- 図版8-1 前高下散布地 T3 (東から)
 -2 前高下散布地 T4 (東から)
 -3 前高下散布地 T5 (東から)
 -4 大澤散布地 遠景 (東から)
 -5 大澤散布地 T1 (東から)
 -6 大澤散布地 T2 (東から)
 -7 平埴散布地 調査風景 (東から)
 -8 平埴散布地 T1 (東から)
- 図版9-1 平埴散布地 T2 (南から)
 -2 平埴散布地 T3 (南から)
 -3 藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) 遠景 (南から)
 -4 藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) T1 (南から)
 -5 藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) T2 (南から)
 -6 藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) T3 (西から)
 -7 藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) T4 (南から)
 -8 天王散布地 遠景 (西から)
- 図版10-1 天王散布地 T1 (南から)
 -2 天王散布地 T2 (東から)
 -3 天王散布地 T3 (東から)
 -4 天王散布地 T4 (西から)
 -5 天王散布地 T5 (南から)
 -6 天王散布地 T6 (西から)
 -7 家ノ下散布地出土遺物
 -8 土居遺跡 (H18-3) 出土遺物
- 図版11-1 上河原散布地出土遺物
 -2 石仏上遺跡出土遺物
 -3 金仙寺散布地出土遺物
 -4 土居遺跡 (H19-4) 出土遺物
 -5 舞台裏遺跡出土遺物
 -6 藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) 出土遺物
 -7 前高下散布地出土遺物
 -8 藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) 出土遺物
 -9 天王散布地出土遺物

第1章 地理的・歴史的環境

勝央町は南方に緩やかに傾斜する標高100m～200mの丘陵地にある。町の北部は那岐山、滝山などの中国山地を背に受けて日本原高原から緩やかな丘陵が起伏した台地を形成し、町の中南部は滝川に源を発し、町の中心を南北に流れ、岡山三大河川の吉井川に注ぐ滝川に沿って比較的平坦な盆地・平野を形成している。豊かな土地にあつて古来より多くの人々が生活していたようで勝央町内には現在までに約800箇所の遺跡が確認され、県下でも有数の埋蔵文化財包蔵地帯となっている。以下、町内の主要な遺跡の概要を述べ歴史を概観する。

まず、町内最古の遺跡としては、縄文草創期の尖頭器や石鏃などが最近調査された大河内遺跡でまとも出土している。その他、縄文時代前期の押型土器が金鶏塚遺跡などで採集されている。弥生時代では前期に遡る土壘墓が大河内遺跡で発見されているが、中期以降に多くの集落が展開する。中期後葉から後期では、北部の鳥羽野周辺において銅鐸が出土している念仏塚遺跡を中心に、台地上に広範囲に集落が展開する。南部では滝川下流域の拠点的な集落と考えられる小中遺跡があり、建替を含め300軒を越す住居が確認されている。後期末～古墳初頭には、最近の調査により土居遺跡、宮ノ上遺跡において住居跡が発見され集落像が明らかになった。続く古墳時代では、町内全域に多くの古墳が存在している。前期には、北部の植月・美野は美作最大の植月寺山古墳（全長約90m）や美野高塚古墳（全長約70m）等を初め多くの前期～中期の前方後方墳が密集する特異な地域となっている。さらに南部の勝間田周辺でも前方後方墳の岡高塚古墳（全長56m）、前方後円墳の琴平山古墳（全長48m）、殿塚古墳（全長48m）が存在する等、多くの首長墓が認められる。中期では前方後円墳の愛宕山古墳（全長28m）、よつみだわ2号墳（全長20m）が存在し、最近調査され銅鐸2面が出土した中期前半の宮ノ上古墳などもある。中期後半～後期には多くの群集墳が確認されている。竪穴系を主体とする広高下古墳群や東光寺古墳群、後期後半には横穴式石室を中心とする奥の院古墳群や高塚古墳群が存在する。一部の古墳からは美作に特徴的な陶棺が出土している。奈良時代～平安時代には勝田郡衙に比定される勝間田・平遺跡があり、正庁と見られる大型建物が検出され、瓦や硯など特徴的な遺物が出土している。その他、小中遺跡でわずかに奈良時代の掘立柱建物が確認されている以外は一般集落については不明点が多い。平安時代末～鎌倉時代にかけては、間山周辺もしくは畑屋・東吉田一帯で須恵器系中世陶器である勝間田焼の窯が50基以上確認されており、勝間田古窯跡群と呼称されている。戸岩窯や進上谷窯の成果から日常雑器を中心に生産していたことが判明しており、美作を中心に一部は播磨や山陰地域にも流通している。集落跡では土師器窯が発見された石仏上遺跡、大型掘立柱建物が発見された藤ヶ瀬遺跡、及遺跡など消費地の調査例が増加している。中世後期の城館では植月宮山城や小矢田城が代表的なものである。近世には参勤交代のため出雲街道の宿場町として勝間田が整備された。

※本文は、勝央町文化財調査報告第4集『福吉丸山遺跡』「第2章 遺跡の位置と環境」勝央町教育委員会 1999 の内容を元に、一部最近の成果を取り入れたものである。



勝央町遺跡分布地図凡例



- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1. 鳥羽野遺跡群 | 11. 愛宕山古墳 | 21. 七十古墳群 |
| 2. 念仏塚遺跡 | 12. 河内奥窟 | 22. 遼上谷窟 |
| 3. 植月寺山古墳 | 13. 岡高塚古墳 | 23. 東光寺古墳群 |
| 4. 富山城 | 14. 岡山高樺寺跡 | 24. 小中道跡 |
| 5. 広高下古墳群 | 15. 琴平山古墳 | 25. 小池谷遺跡 |
| 6. 戸岩窟 | 16. 殿塚古墳 | 26. 藤ノ瀬遺跡 |
| 7. 西宮神社裏古墳 | 17. 勝岡田・平遺跡 | 27. 大河内遺跡 |
| 8. 美野中塚古墳 | 18. 石仏上遺跡 | 28. 小矢田城 |
| 9. 美野高塚古墳 | 19. 勝岡田宿場跡 | |
| 10. 田井高塚古墳 | 20. 神田山城 | |



第1図 遺跡分布地図 (1/40000)

第2章 調査の経緯と経過

第1節 勝央町の概要と調査の経緯

勝央町は、総面積約53km²、人口1万1千人の小さな町である。農業を中心とするが、中国地方でも有数の工業団地があり、工業も盛んな地域である。現状で800箇所以上の埋蔵文化財包蔵地が存在しており、さらに増加する可能性がある。

近年、町の中心部である勝間田地区をはじめ、国道179号沿線である岡・黒土地区では市街化が進み、宅地造成やアパート建設などが増加傾向にある。この状況下、町では平成11年～平成14年に国庫補助事業として町内全域を対象とした遺跡分布調査を実施し、詳細な遺跡分布地図を作成して、遺跡の基礎資料を充実させた。平成15年度からは、国庫補助事業として開発事業に先立つ町内遺跡の試掘・確認調査を実施することとなり、開発と文化財保護の協議が円滑に進むよう努めている現状である。平成15年度～平成17年度の成果については、既に試掘確認報告書が刊行され、公表されている。以後、最近3ヶ年の開発の傾向としては、民間・公共ともに大規模な事業は少なくなっているのは変わらないが、依然、公共事業では小規模な道路工事が多く、一方の民間開発では共同住宅等の宅地造成が多くを占めている。

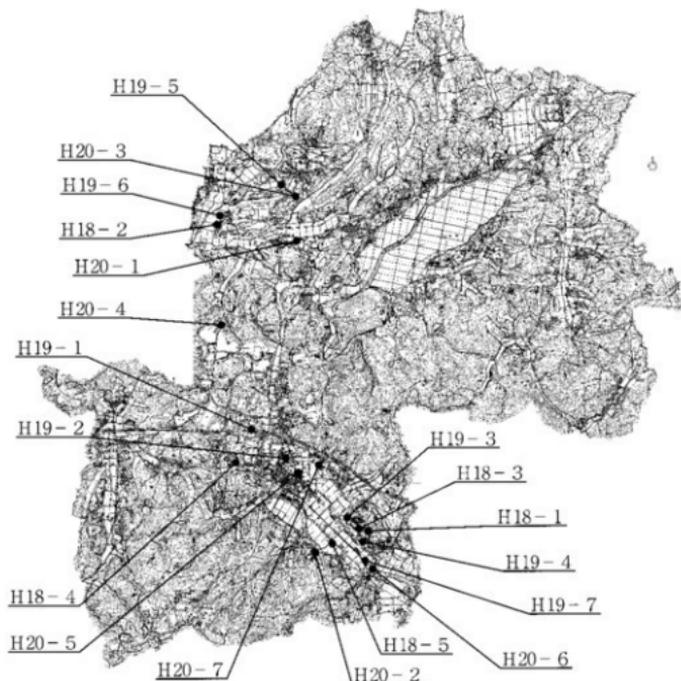
第2節 平成18年度～平成20年度の調査について

平成18年度～平成20年度国庫圃場事業により実施した試掘・確認調査件数は19件で別表のとおりである。中でも平成19年度・平成20年度は、それ以前に比べ協議件数は増加しており、これは共同住宅等アパートの建設が増加したためである。以下、各年度の主要な成果を述べる。

平成18年度は5件の試掘調査を実施した。このうち、土居遺跡(H18-1、H18-3)では、弥生時代後期後半の住居跡が発見され、弥生時代を中心とする集落と判明した。土居遺跡(H18-3)については、全面調査を実施した。家ノ下散布地(H18-2)では、南に離れた位置で新規に荒神遺跡が発見された。また、上河原散布地(H18-5)では、一部に中世の集落が確認された。平成19年度は7件の試掘・確認調査を実施した。このうち、石仏上遺跡(H19-2)は、平成13年度に初めて発見された中世の集落遺跡で、今回東に大きく広がることが判明した。これについては全面調査を実施した。金仙寺散布地(H19-3)では時期不明ながら平坦面や土壌が確認された。舞台裏遺跡(H19-5)では、西に大きく集落が延びることが判明した。家ノ下遺跡(H19-6)は、弥生時代の集落と判明した。藤ヶ瀬遺跡(H19-7)は、平成16年度に発見された中世の集落遺跡で、さらに南・西方向へ広がることが判明し、これについては全面調査を実施した。平成20年度は7件の試掘・確認調査を実施した。三反田散布地(H20-1)では古墳～奈良時代の遺構が新規に発見された。前高下遺跡(H20-3)は、弥生時代後期を中心とする集落で大規模な溝等が確認された。藤ヶ瀬遺跡(H20-6)は、今回の試掘により中世の集落がさらに南東方向へ広がることが判明した。また、天王散布地(H20-7)は内容不明の散布地であったが、包含層や流路など中世を中心とした集落の一部と判明した。

年度	種別	地名	地種	用途	調査年度	調査面積	調査の有無	備考
H18	1	土居遺跡	黒土	民間開発・宅地造成	H18.8	40	有	
H18	2	家ノ下散布地	榎月北	公共事業・道路	H18.9～12	30	有	本調査
H18	3	土居遺跡	黒土	民間開発・宅地造成	H18.11	62	有	本調査
H18	4	八幡散布地	勝間田	民間開発・通信設備	H19.1	23		
H18	5	上河原散布地	黒土	民間開発・福祉施設	H19.2	132	有	
H19	1	中根工業団地内A地区遺跡	太平台	公共事業・体育施設	H19.4	48		
H19	2	石仏上遺跡	勝間田	公共事業・学校建設	H19.5～6	38	有	本調査
H19	3	金仙寺散布地	黒土	民間開発・共同住宅	H19.9	48	有	盛土保存
H19	4	土居遺跡	黒土	民間開発・共同住宅	H19.10	19	有	盛土保存
H19	5	舞台裏遺跡	榎月北	民間開発・個人住宅	H19.11	28	有	盛土保存
H19	6	家ノ下散布地	榎月北	公共事業・道路	H19.11	10	有	
H19	7	藤ヶ瀬遺跡	黒土	民間開発・共同住宅	H19.11～12	47	有	盛土保存
H20	1	三反田散布地	榎月中	民間開発・共同住宅	H20.5	40	有	立会
H20	2	榎土居散布地	東吉田	公共事業・道路	H20.6	48		
H20	3	前高下散布地	榎月北	公共事業・道路	H20.7	60	有	立会
H20	4	大澤散布地	榎月中	民間開発・個人住宅	H20.7	30		
H20	5	平坊散布地	勝間田	民間開発・共同住宅	H20.8	21	有	盛土保存
H20	6	藤ヶ瀬遺跡	黒土	民間開発・共同住宅	H20.10	24	有	盛土保存
H20	7	天王散布地	岡	公共事業・道路	H20.11	26	有	立会

表1 試掘・確認調査一覧表



第2図 試掘・確認調査位置図 (1/60000)

第3章 埋蔵文化財試掘・確認調査の概要

第1節 平成18年度（2006年度）実施の調査成果

1. 土居遺跡確認調査（H18-1）

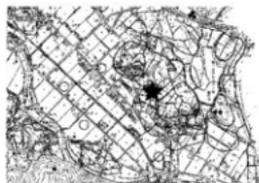
（所在地） 岡山県勝田郡勝央町黒土319ほか

（工事内容） 宅地造成

（調査期間） 平成18年8月3日～8月4日

（調査面積） 約40㎡

（調査概要）



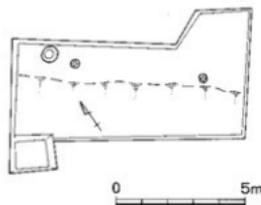
調査位置図 (1/40000)

勝央町黒土地内において分譲住宅地の造成が計画された。予定地は周知の土居遺跡に該当することから、事前に確認調査を実施することとなった。予定地は尾根先端の裾部にあたり、山側は造成により崖となっている。道路予定地にトレンチを設定した。重機で表土・盛土を除去し、人力により遺構検出、掘削、出土遺物の採取を行った。以下、各トレンチの調査概要を述べる。

T1 10.0×4.0mのトレンチを設定した。地山は山側では地表下30cmで確認された。削平を受けているものの概ね南西に傾斜しており、旧地形を留めている。南西半分は大きく削平を受け1.6m下がった位置で地山を確認した。検出された遺構は、ピット2基、土塋1基のみであった。ピットはいずれも残りが悪く、直径20cm、深さ10cm程度であった。ピットからは須恵器・土師器小片が出土した。土塋は直径60cm、深さ15cmを測る。遺物は出土していない。

（調査結果）

確認調査の結果、T1から遺構・遺物が確認され、遺跡の存在することが判明した。時期は判然としないが、古墳時代か中世の集落跡と考えられる。今回の予定地内は削平が著しく、T1以外に遺構が広がる可能性は少ないと思われる。遺跡は周辺地形等から西へ大きく展開すると予想される。



第3図 トレンチ位置図 (1/5000)・平面図 (1/200)

2. 家ノ下散布地確認調査（1次）（H18-2）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町植月北
 （工事内容） 道路改良
 （調査期間） 平成18年9月21日～12月28日
 （調査面積） 約30㎡
 （調査概要）



調査位置図 (1/40000)

勝央町植月北地内において、町道鳥羽野田中線の改良工事が計画された。予定地は西に張り出す2本の丘陵尾根裾にあたり、北側は周知の家ノ下散布地に該当することや、南側は尾根上に存在する弓盛散布地に隣接することなどから、事前に確認調査を実施することとなった。平成18年度は1次調査として南側丘陵の西側裾部にトレンチ(T1～T4)、北側にT5を設定した。また平成19年度はT4の北側にトレンチを設定する予定である。調査では、人力により作業を行い、包含層・遺構掘削、出土遺物の採取を行った。以下では、各トレンチの調査概要を述べる。

T1 予定地南端に3.0×1.5mのトレンチを設定した。付近は尾根裾にあたる。基本層序は表土直下で地山である黄色砂礫層を確認した。地表下20cmと浅く、圃場整備により削平されている状況であった。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T2 予定地南側、旧地形を留めている箇所に2.5×1.5mのトレンチを設定した。基本層序は表土、遺物包含層である黒褐色砂質土、黒褐色砂質土、地山である黄褐色砂質土の順である。地山は地表下50cmで達する。遺構は柱穴と見られるものが1基検出されたのみである。出土遺物では、須恵器片、土師器片が少量出土した。

T3 予定地の中央に3.0×1.4mのトレンチを設定した。T3・T4は現況では谷筋にあたる。基本層序は表土、暗褐色砂質土、黄褐色粘質土の順である。圃場整備により削平され、遺物包含層とみられる暗褐色砂質土は10cmほどしか残っていなかった。地山は地表下30cmと比較的浅い位置で確認された。ここでは遺構は確認されなかった。出土遺物では須恵器片、土師器片が少量出土した。

T4 予定地の中央に6.3×1.4mのトレンチを設定した。ここでは表土直下で地山を確認した。地表下30cmで達する。遺構は地山面で検出され、南北に延びる溝状遺構、それに取り付く形で東西に延びる谷状の溝を確認した。溝状遺構は、上部が暗渠により削平を受



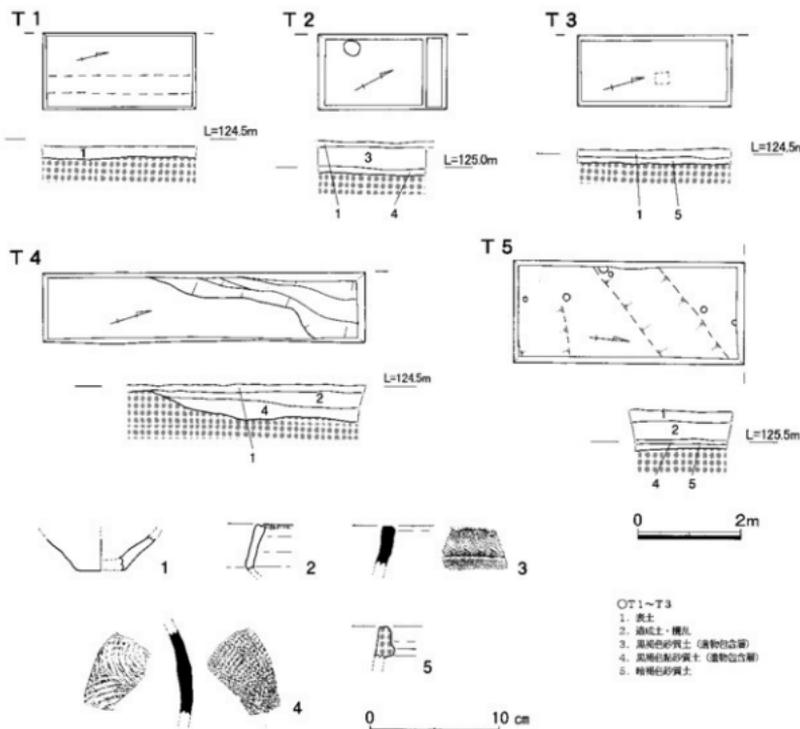
第4図 トレンチ位置図 (1/5000)

けているが、断面はU字形を呈する。埋土は黒褐色砂質土が堆積している。出土遺物では、土師器片等が出土した。

T5 45×20mのトレンチを設定した。基本層序は表土・造成土、遺物包含層である黒褐色砂質土、暗褐色土、地山の順である。地山は北西へ傾斜し、地表下80cmで違する。地山面で遺構が確認された。遺構は、ピット5基である。出土遺物では弥生土器片が少量出土した。図化できた出土遺物では、弥生土器壺1・2、須恵器寛3・4、瓦質土器羽釜5がある。

(調査結果)

今回の調査では、南側の丘陵裾にT1～T4、北側の丘陵裾にT5に分けて確認調査を実施した。まず南側のT2・4では僅かながら遺構・遺物が確認され、丘陵裾に広がる集落遺跡が新しく発見され、地名から荒神遺跡と命名した。またT5では遺構・遺物が確認され、家ノ下遺跡の実態が明らかとなった。T5では地山が北西へ傾斜しており、さらに西へ遺跡が広がると考えられる。これらのことから、丘陵裾から西の羽出川に向けて弥生～中世の遺跡が広がると考えられる。



第5図 トレンチ平面・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)

3. 土居遺跡確認調査（H18-3）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町黒土字吉政337-1ほか

（工事内容） 宅地造成

（調査期間） 平成18年11月7日～11月17日

（調査面積） 62㎡

（調査概要）

勝央町黒土地内において分譲住宅地の造成が計画された。予定地は周辺の土居遺跡に該当することから、工事予定範囲内にT1～T4の4ヶ所のトレンチを設定した。重機で表土・造成土を除去後、人力により遺構面の確認・精査を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T1 計画地の南西端に6.0×2.5mのトレンチを設定した。表土・造成土を除去後、灰褐色土の遺物包含層（中世）、黄色砂礫層の地山面を確認した。北端で弥生時代の竪穴住居の一部が検出された。平面は円形と見られ、柱穴は2基を確認した。埋土は黒褐色土で、弥生土器片が出土している。

T2 計画地東南側に5.0×2.0mのトレンチを設定した。表土・造成土を除去後、黒褐色土の遺物包含層（弥生時代）を確認した。さらに30cm下で黄色砂質土の地山面では、柱穴、土壌が検出された。埋土中より弥生土器などが出土している。この包含層は、その後の本調査により、住居跡の埋土と判明した。

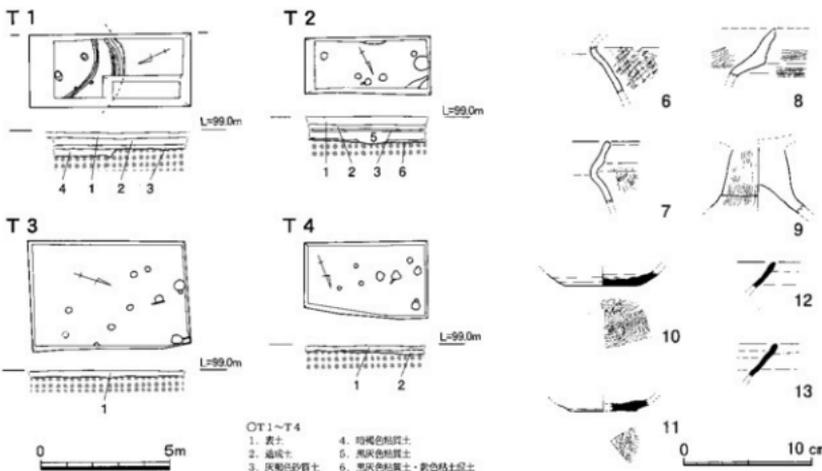
T3 計画地東側に4.0×6.0mのトレンチを設定した。表土・造成土を除去後、すぐに地山である黄色



調査位置図 (1/40000)



第6図 トレンチ位置図 (1/5000)



第7図 トレンチ平面・断面図 (1/200)・出土土器 (1/4)

砂質土面を確認した。この面で中世期とみられる柱穴が検出された。埋土中より勝間田焼が出土している。

T4 計画地北西端に4.5×3.0mのトレンチを設定した。表土・造成土を除去後すぐに地山である黄色砂質土面が現れた。この面で柱穴が検出された。埋土中から弥生土器片が出土している。

図化できた出土遺物では、弥生土器甕**6・7**、壺**8**、高杯**9**の他、勝間田焼**筒10～13**がある。

〔調査結果〕

調査により、すべてのトレンチから遺構・遺物が発見された。特に弥生時代の堅穴住居、柱穴が確認され、弥生土器が多く出土している。また、鎌倉時代の柱穴も少数確認されており、これらの時期の集落が事業計画地一帯に広がっていることが判明した。

4. 八幡散布地確認調査（H18-4）

〔所在地〕 岡山県勝田郡勝央町勝間田468-1ほか

〔工事内容〕 携帯電話基地局

〔調査期間〕 平成19年1月29日～1月30日

〔調査面積〕 約23㎡

〔調査概要〕

勝央町勝間田字八幡地内において鉄塔基地局の建設が計画された。予定地は周知の八幡散布地に隣接することから事前に試掘調査を実施することとなった。計画位置は、丘陵頂部からやや緩斜面にあたる。斜面に平行するようにトレンチ（試掘溝）を設定した。重機により表土除去後、人力で清掃、遺構検出を行った。調査したトレンチの概要を述べる。

T1 9.4×2.5mのトレンチを設定した。表土下50cmで地山に達する。地山土は黄褐色砂質土である。精査の結果、遺構・遺物ともに確認されなかった。

〔調査結果〕

以上の結果から、今回の試掘調査では、直接遺跡の痕跡を示すものは確認されなかった。平野から見てやや裏側にあたるものと思われるが、同じ丘陵上に遺跡が存在する可能性が高い。



調査位置図 (1/40000)



第8図 トレンチ位置図 (1/5000)

5. 上河原散布地確認調査（H18-5）

〔所在地〕 岡山県勝田郡勝央町黒土字上河原43-1

〔工事内容〕 福祉施設建設

〔調査期間〕 平成19年2月13日～2月28日

〔調査面積〕 132㎡



調査位置図 (1/40000)

〔調査概要〕

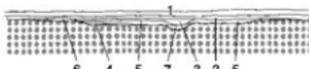
黒土地内において福祉施設の建設が計画された。予定地は周知の上河原散布地に含まれることから、事前に確認調査を実施することとなった。予定地は平坦な水田地帯である。西からT1～T4の4ヶ所のトレンチ（試掘溝）を設定し、基本的に重機で表土・造成土を除去、人力により遺構面の確認・精査を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。



第9図 トレンチ位置図 (1/5000)

T1 計画範囲の西端に3.0×12mのトレンチを設定した。南端では表土・造成土直下40cmで地山である礫層が確認された。中央部には黒褐色砂質土が堆積し、自然流路と判断した。流路状のものは東西方向に伸びる。ここでは底面から一段深くなっ

T1



- OT1
- 1. 表土
 - 2. 造成土・旧表土
 - 3. 砂礫土
 - 4. 黒褐色砂質土
 - 5. 黒褐色砂礫土
 - 6. 雑褐色砂土
 - 7. 雑褐色砂質土

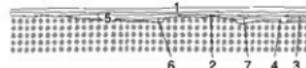
T3



- OT3
- 1. 表土
 - 2. 造成土・旧表土
 - 3. 灰色砂質土
 - 4. 灰色砂質土
 - 5. 雑褐色砂質土
 - 6. 雑褐色砂質土
 - 7. 灰色砂質土
 - 8. 黒褐色砂質土

※レベルは任意

T2

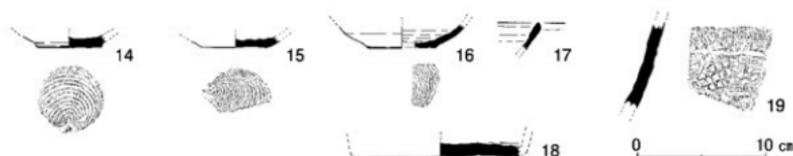


- OT2
- 1. 表土
 - 2. 造成土・旧表土
 - 3. 灰色砂質土
 - 4. 雑褐色砂質土
 - 5. 砂礫土
 - 6. 黒褐色砂質土
 - 7. 黒褐色砂質土
 - 8. 雑褐色砂質土

T4



- OT4
- 1. 表土
 - 2. 造成土・旧表土
 - 3. 灰色砂質土
 - 4. 灰色砂質土
 - 5. 灰色砂質土
 - 6. 雑褐色砂質土
 - 7. 雑褐色砂質土
 - 8. 雑褐色砂質土
 - 9. 黒褐色砂質土
 - 10. 雑褐色砂質土



第10図 トレンチ平面・断面図 (1/200)・出土土器 (1/4)

た溝状の遺構を確認した。東西に延び、規模は幅1m、長さ1.5m以上である。その他、南端で柱穴1基を検出している。黒褐色砂礫土中から少量ながら須恵器、勝間田焼が出土している。

T2 計画範囲の中央西側に3.0×12mのトレンチを設定した。南端では表土、造成土直下で地山の礫層を確認した。東西に延びる2本の自然流路を検出した。埋土は黒灰色砂質土である。明確な遺構は確認されず、遺物は少量ながら勝間田焼などが出土している。

T3 計画範囲の中央東側に3.0×10mのトレンチを設定した。T3から東南側へは地形が下がっている。トレンチ北西端において表土・造成土下60cmでようやく地山である礫層が確認された。地山は南へ30cmほど下がっている。基本層序は、造成土下が暗褐色粘質土、黄灰色砂礫層、灰色砂礫、黒灰色砂礫、地山の順に堆積している。明確な遺構は確認できなかったが、柱穴状のたわみが1基確認されている。遺物では暗褐色粘質土層や黒灰色砂礫層から須恵器、勝間田焼が出土している。

T4 計画範囲の東端に3.0×10mのトレンチを設定した。表土・造成土下90cmで地山である礫層が確認された。地山である礫層は北へ下がっている。基本層序は暗灰色粘砂質土、黄褐色砂層、黒褐色砂層、地山の順である。地山面から暗灰粘土を埋土とする杭跡が確認されたのみで、その他の明確な遺構は確認できなかった。遺物では黒褐色砂層から、須恵器、土師器、勝間田焼が出土している。

図化できた出土遺物は、勝間田焼碗14～17、壺18、甕19である。

(調査結果)

調査の結果、計画地西半分に集落跡と見られる遺跡の一部が発見された。付近は中州のような小高い土地であったと考えられ、T1からは溝状の遺構や、柱穴などが確認されている。しかしながら、全体的に遺物の量も少なく、摩滅したものも多い。また、幾筋も自然流路が確認され、頻繁に河川の氾濫があったことを示している。これらのことから、本来、集落が存在した可能性があるものの、土地は安定しておらず、後世の洪水等で削平され残りは非常に悪いか、もしくは消滅していると考えられる。

第2節 平成19年度（2007年度）実施の調査成果

1. 中核工業団地内A地点遺跡確認調査（H19-1）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町太平台43

（工事内容） グランドゴルフ場整備

（調査期間） 平成19年4月5日～4月9日

（調査面積） 約48㎡

（調査概要）

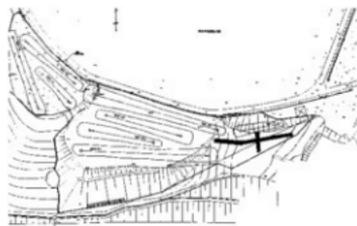
勝央町太平台にある中核工業団地内スポーツ公園において新たにグランドゴルフ場の整備が計画された。予定地は昭和49年に実施された勝央中核工業団地造成に伴う試掘によりA地点遺跡が発見され、No.1古墳が保存された場所であることから、事前に確認調査を実施することとなった。十字形に2ヶ所のトレンチを設定した。重機により表土を除去後、人力で遺構検出、精査を行った。以下では、各トレンチの調査概要を述べる。

T1 尾根に直交する形で東西方向に28.0×1.5mのトレンチを設定した。平坦部では表土下30cm、東斜面部では60cm下で黄褐色砂礫土の地山に達する。東斜面部では、風倒木痕が確認され、埋土はクロボク土が堆積していた。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T2 尾根頂上に南北方向に6.0×1.5mのトレンチを設定した。表土下30cmで地山に達する。T1同様、遺構・遺物ともに確認されなかった。

（調査結果）

以上の結果から、今回の確認調査では範囲が狭小ということもあり、予定地に遺跡は確認されなかった。しかしながら、周辺の丘陵には遺跡が発見される可能性が高い。



第11図 調査位置図 (1/5000)・トレンチ位置図 (1/2000)



調査位置図 (1/40000)

2. 石仏上遺跡確認調査（H19-2）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町勝間田191

（工事内容） 学校改築

（調査期間） 平成19年5月23日～6月8日

（調査面積） 38㎡

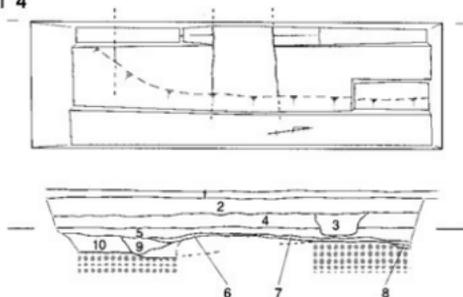


調査位置図 (1/40000)

〔調査概要〕

現在の勝間田小学校の改築工事が計画された。予定地は周知の石仏上遺跡に含まれていることから、平成19年1月に急遽、第1次試掘調査（T1～T3）を実施した。その結果、遺跡の存在が明らかとなったため、遺跡の詳細な広がりを確認することを目的に第2次調査（T4～T6）の3ヶ所のトレンチを設定した。以下、各トレンチの概要を述べる。

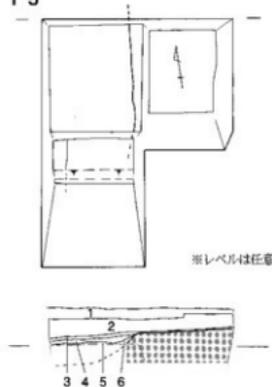
T4 8.0×2.5mのトレンチを設定した。基本層序は、造成土、旧水田層、灰褐色砂質層（遺物包含層）、地山の順である。地山となる礫層は地表下90cmで確認された。地山は中央

**T4**

OT4

1. アスファルト
2. 造成土
3. 礫層
4. 灰色土・黄土（旧耕作土）
5. 灰褐色砂質土（遺物包含層）
6. 褐色砂質土（遺物包含層）
7. 褐色砂質土
8. 褐色粘質土
9. 褐色砂質土・砂礫土
10. 褐色粘土・砂土（乱層）

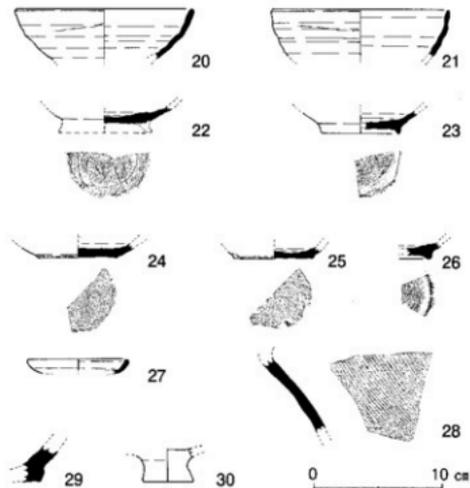
0 5m

T5

※レベルは任意

OT5

1. アスファルト・造成土
2. 造成土
3. 厚灰色粘質土
4. 灰褐色砂質土
5. 褐色砂質土
6. 厚灰色粘質土



0 10 cm

第12図 トレンチ位置図 (1/5000)・トレンチ平面・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)

が一番高くなっており、北へ徐々に下がっていく。最大30cmほどの段差があり、褐色粘砂質土が堆積している。これは東西に延びる溝状遺構と考えられ、少量の勝間田焼片が出土している。南側は旧河道と見られる褐色粘質土と砂層の堆積が見られ、この上面で東西方向に延びる溝状遺構を検出した。幅1.8m、深さ40cmと浅いものである。出土遺物は少量であるが、勝間田焼、瓦質土器など中世期の遺物が出土している。

T5 5.0×3.0mのトレンチを設定した。大半が攪乱を受けており、部分的な調査に止まった。トレンチ東側では造成土直下で地山の礫層が検出された。地表下50cmである。中央から西側へは地山が下がっていくことから、溝状の遺構と考えられる。埋土は褐色粘砂質土である。溝の深さ50cm以上と深いもので、南北へ延びると考えられる。出土遺物は少量で、検出面から勝間田焼片、土師器片など中世期の遺物が出土している。

T6 2.0×1.8mのトレンチを設定した。造成土直下で地山である茶褐色礫層が検出された。地表下約40cmである。東端隅は後世の攪乱を受けている。遺構・遺物は確認されなかった。

図化できた出土遺物は、勝間田焼碗20～26、小皿27、甕28、壺29、土師器杯の高台部分30がある。すべてT4から出土したものである。

（調査結果）

今回の調査の結果、T4、T5で遺構・遺物が確認され、1次調査のT1、T2の結果とも併せて、石仏上遺跡が東南方向200mの位置まで広がっていることが判明した。T5の溝状遺構はT1で確認された地形の落ち込みに対応し、南北に延びると考えられる。またT4では2条の溝状遺構が存在し、河道の埋没後に遺構が確認された。これらの遺構は出土遺物から中世の時期と考えられる。付近一帯は、地山が礫層や砂層で構成され、澗川が盛んに氾濫する不安定な土地であったと考えられるが、中世期には土砂が堆積して比較的安定したものと考えられ、かなり広範囲に集落が営まれたと推測される。

3. 金仙寺散布地確認調査（H19-3）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町黒土字池尻142ほか

（工事内容） 共同住宅建設

（調査期間） 平成19年9月16日～9月20日

（調査面積） 約48㎡

（調査概要）

勝央町黒土地内において共同住宅の建設が計画された。予定地は、周知の金仙寺散布地に該当することから、事前に確認調査を実施することとなった。調査は構造物範囲に2ヶ所のトレンチを設定した。重機により表土・盛土を除去後、人力により掘削し、遺構検出、掘削、出土遺物の採取を行った。以下、各トレンチの調査概要を述べる。

T1 予定地東端に10.0×3.0mのトレンチを設定した。北端において地表下70cmで黄色粘質土層の地山を確認した。明確な遺構は確認されなかったが、地山の傾斜が平坦になっており、地山を造成した痕跡と考えられる。地山上に黒褐色粘質土層、暗褐色砂質土層が堆積し、この造成面の埋土が包含層の可能性がある。時期は黒褐色粘質土中からの出土遺物が少なく不明であるが、周辺の地層の状況か



調査位置図 (1/40000)

ら弥生時代～中世と考えられる。

T2 予定地西端に6.0×3.0mのトレンチを設定した。北端において地表下120cmで黄色砂質土層の地山を確認した。南端では地山がやや低くなり、その上に中世期以降の暗褐色砂質土が堆積する。地山上で、時期不明の土壌が検出された。調査区外へ延びているため詳細は不明で、水田境界溝の可能性もある。T1で確認された黒褐色粘質土層は、削平により確認されなかった。

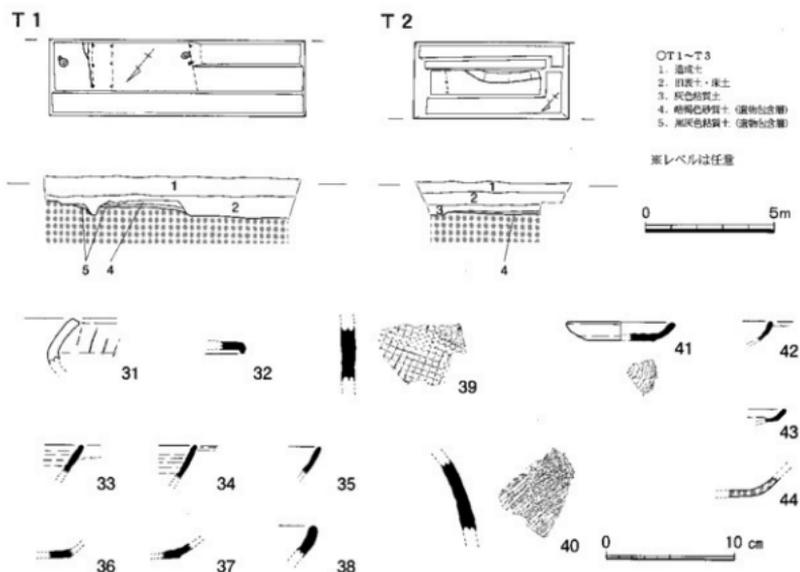
図化できた出土遺物では、弥生土器壺**31**、須恵器では杯蓋**32**、勝間田焼では椀**33～37**、小皿**41～43**、こね針**38**、甕**39・40**、瓦質土器鍋**44**がある。

(調査結果)

確認調査の結果、トレンチ2ヶ所共に遺構と見られる痕跡が確認され、丘陵上を中心とする金仙寺散布地が丘陵裾にまで広がっていることが判明した。堆積土から、時期は弥生時代～中世と考えられ、この時期の集落の存在が想定される。



第13図 トレンチ位置図 (1/5000)



第14図 トレンチ平面・断面図 (1/200)・出土土器 (1/4)

4. 土居遺跡確認調査（H19-4）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町黒土字吉政295-1ほか

（工事内容） 共同住宅建設

（調査期間） 平成19年10月16日～10月23日

（調査面積） 約19㎡

（調査概要）

勝央町黒土地内において共同住宅の建設が計画された。予定地内は、周知の土居遺跡に該当することから、事前の確認調査を実施することとなった。調査は計画範囲に3ヶ所のトレンチを設定した。掘削はすべて人力で行い、遺構検出・掘削・出土遺物の採取を行った。以下、各トレンチの調査概要を述べる。

T1 予定地西側に2.5×1.8mのトレンチを設定した。基本層序は耕作土、盛土、旧表土、灰褐色砂質土、遺物包含層である黒褐色粘質土、地山である黄色粘質土の順である。地山は地表下60cmの位置である。遺構は地山面で溝2条が確認され、黒灰色砂質土を埋土とする。出土遺物は、勝間田焼、土師器があり、時期は中世と考えられる。

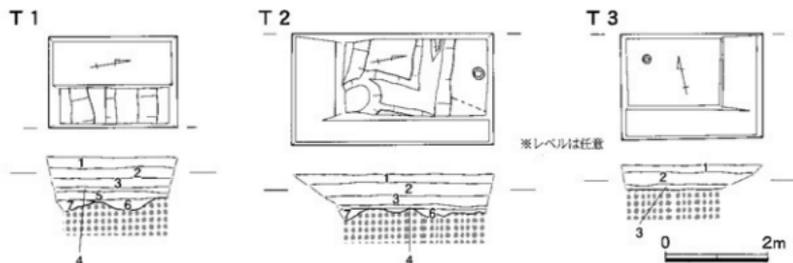
T2 予定地中央に4.0×2.2mのトレンチを設定した。基本層序は耕作土、盛土、旧表土、遺物包含



調査位置図 (1/40000)

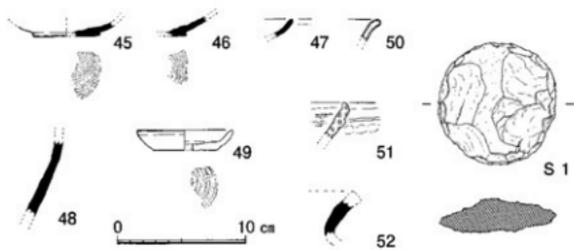


第15図 トレンチ位置図 (1/5000)



OT1～T3

1. 表土
2. 盛土
3. 旧表土・表土
4. 灰褐色砂質土（遺物包含層）
5. 黒褐色粘質土（遺物包含層）
6. 黒灰色砂質土
7. 黄色粘質土



第16図 トレンチ平面・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)

層である灰褐色砂質土、地山である黄色粘質土の順である。地山は地表下60cm前後で確認した。遺構は地山面で柱穴1基、土塙1基、溝3条が確認され、暗灰色粘質土を埋土とする。出土遺物は、勝間田焼、土師器があり、時期は中世と考えられる。

T3 予定地東端に30×21mのトレンチを設定した。基本層序は耕作土、盛土、旧表土、地山である黄色砂質土の順である。地山は地表下50cmで確認した。T3付近は近世以降の開墾等で平坦に削平されている。遺構は、直径15cmの小ピット、杭痕を確認した。暗灰色土を埋土とすることから時期は中世のものと考えられる。遺物は土師器片が出土している。

図化できた出土遺物に、勝間田焼では柄45～46、小皿47、壺48、土師器小皿49、青磁の柄50、瓦質土器羽釜51、須恵器壺52がある。石器では、環状石斧S1がある。平面円形で縁に刃を付けて整形している。

(調査結果)

今回の確認調査の結果、各トレンチから遺構・遺物が確認され、土居遺跡の広がりが今回の調査地にも及んでいることが判明した。特に柱穴、土塙、溝は中世のもので当時期の集落が存在するようである。これらのことから土居遺跡は、弥生時代～中世にかけての集落遺跡と考えられ、さらに広範囲に広がることが予想される。

5. 舞台裏遺跡確認調査（H19-5）

(所在地) 岡山県勝田郡勝央町植月北字久保3494

(工事内容) 個人住宅建築

(調査期間) 平成19年11月26日

(調査面積) 28㎡

(調査概要)

植月北地内において個人住宅の建設が計画された。予定地は周知の舞台裏遺跡に該当していることから、事前の確認調査を実施することとなった。調査では、予定地にT1～T3の3ヶ所のトレンチを設定した。重機で表土・造成土を除去後、人力により遺構面の確認・精査を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T1 計画地の東側に5.3×2.5mのトレンチを設定した。表土、圃場整備造成土を除去後、地山と考えられる黄灰褐色砂質土が確認された。地山は地表下65cmで達する。周辺は圃場整備により削平を受け、南半分は地山が削平されている。遺物包含層と考えられる黒褐色砂質土は部分的に残っているが大部分が失われている。柱穴は2基を確認した。包含層中からは弥生土器片が出土し、須恵器もわずかに出土している。

T2 計画地西側に4.2×2.3mのトレンチを設定した。基本層序は表土、圃場整備造成土、遺物包含層である黒色砂質土、黒灰色砂質土、地山である黄灰褐色砂質土である。包含層までは65cm、地山までは105cmで達する。地山は西南方向へ向けて下っていくようである。地山面で柱穴1基が検出



調査位置図 (1/40000)



第17図 トレンチ位置図 (1/5000)

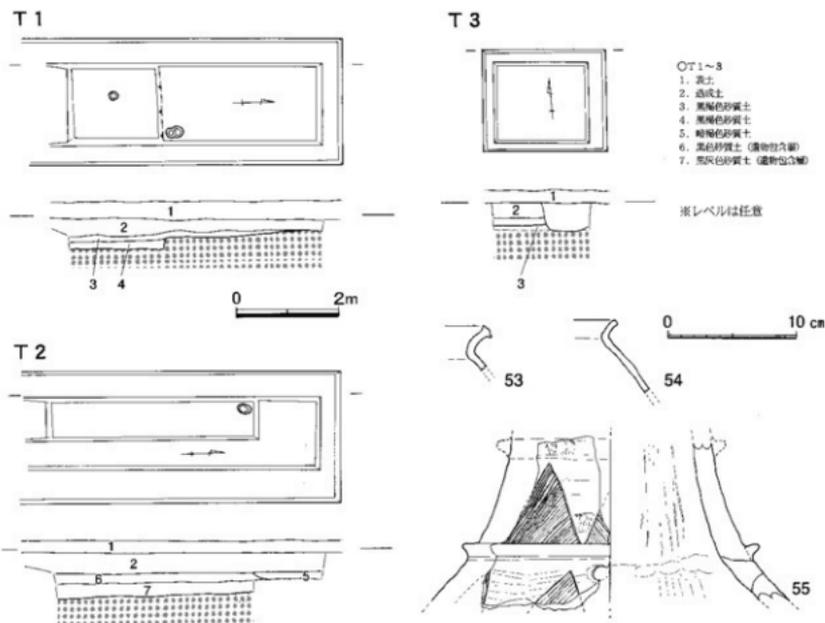
された。黒色砂質土中から弥生土器片が出土している。

T3 計画地北西側に2.8×2.0mのトレンチを設定した。基本層序は表土、圃場整備造成土、遺物包含層である黒褐色砂質土、地山である黄灰褐色砂質土の順である。包含層までは55cm、地山までは65cmで違える。ここでは面積が狭小なこともあり、遺構・遺物は確認されなかった。

図化した出土遺物は弥生土器である。壺**53**・**54**、器台**55**は突帯や細線を充填した鋸歯文で装飾されている。最下段には、焼成後の穿孔がある。

〔調査結果〕

調査により、T1、T2から遺構・遺物が発見された。包含層からは弥生時代の土器が出土しており、わずかに柱穴が確認されたことから、周辺に弥生時代の集落が広がっていることが判明した。また周辺の地形はT1からT2にかけて、急に地山が下がってきており、T2付近は谷状の地形を呈すると考えられる。



第18図 トレンチ平面・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)

6. 家ノ下散布地確認調査 (2次) (H19-6)

(所在地) 岡山県勝田郡勝央町植月北地内

(工事内容) 道路改良

(調査期間) 平成19年11月16日～11月22日

(調査面積) 約10㎡



調査位置図 (1/40000)

（調査概要）

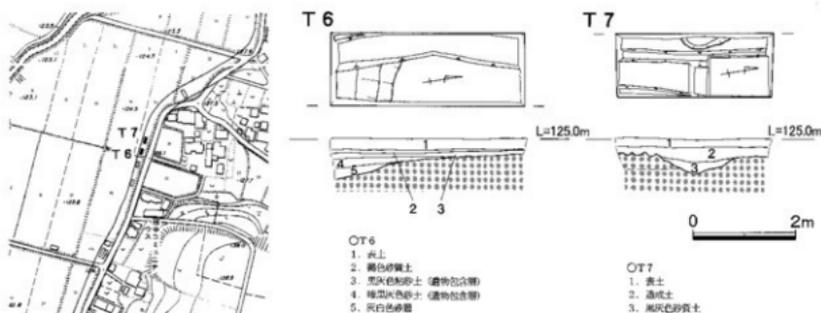
勝央町植木北地内において、鳥羽野田中線の建設が計画された。予定地内は周知の家ノ下散布地に該当することから、事前に確認調査を実施することとなった。平成18年9月に第1次試掘調査（T1～T5）を実施した。今回は、2次調査として北側丘陵の先端に2ヶ所（T6、T7）を設定した。調査では、すべて人力により作業を行い、包含層を掘削、遺構検出、掘削、出土遺物の採取を行った。以下では、各トレンチの調査概要を述べる。

T6 3.8×1.4mのトレンチを設定した。基本層序は表土、圃場造成土、遺物包含層である灰褐色砂質土、黒灰粘砂質土、地山である黄褐色粘質土の順である。地山は地表下30cmで達する。南側は地形が下がり、暗黒灰色粘砂質土、砂層が堆積している。東西に延びる谷もしくは流路と考えられる。西半分は暗渠により削平されていた。明確な遺構は確認されなかった。出土遺物では、流路から弥生土器、須恵器等が少量出土した。

T7 3.0×1.3mのトレンチを設定した。基本層序は表土、圃場整備造成土、地山の順である。圃場整備の際の削平が著しい。地表下30cmで地山に達する。遺構は暗渠を除去した下から検出された。遺構は、土壌が東半分検出されたのみで、現状で長さ1m、幅30cm、深さ40cmを測る。埋土は黒灰色砂質土が堆積している。出土遺物では、造成土中から弥生土器、須恵器等が少量出土した。

（調査結果）

今回の調査では、北側の丘陵裾に確認調査を実施した。まずT7で土壌を検出し、T6で地形の落ちを確認したことから、平成18年のT1～T4に確認された荒神遺跡と、家ノ下遺跡との境にあたると思われる。遺跡はさらに西へ広がっていると考えられる。時期は、出土遺物から弥生～古墳時代と考えられる。



第19図 トレンチ位置図 (1/5000)・平面・断面図 (1/100)

7. 藤ヶ瀬遺跡確認調査（H19-7）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町黒土字藤ヶ瀬465-3

（工事内容） 共同住宅建設

（調査期間） 平成19年11月29日～12月7日

（調査面積） 47㎡



調査位置図 (1/40000)

（調査概要）

勝央町黒土において共同住宅の建設が計画された。予定地は周知の藤ヶ瀬遺跡に該当し、すぐ北隣に調査でも古墳～中世の集落が発見されていることなどから、事前の確認調査を実施することとなった。工事予定範囲内全域にT1～T7の7ヶ所のトレンチを設定し、重機で表土・造成土を除去後、人力により遺構面の確認・精査を行った。以下、各トレンチの調査概要を述べる。



第20図 トレンチ位置図 (1/500)

T1 計画範囲の中央付近に2.2×8.0mのトレンチを設定した。表土、圃場整備造成土を除去後すぐに地山である黄色砂質土面が現れた。南側では、中世期と思われる灰褐色土の包含層が僅かに残る。地山面は表土下40cmで確認され、概ね水平である。この地山面上で中世以前の耕作痕、中世期の柱穴、溝などの遺構を検出した。それに伴い須恵器、土師器、勝間田焼等の遺物が出土している。

T2 計画地中央付近に1.4×3.2mのトレンチを設定した。表土・造成土下35cmで地山である黄色砂質土面が現れた。南へ下がっていき、中世期と思われる灰褐色土の包含層が10cmほどの厚さで残る。東端地山面上で南北に直線的に延びる中世期の溝を検出した。それに伴い勝間田焼、土師器等の遺物が出土している。

T3 計画地西北端に3.8×1.4mのトレンチを設定した。表土直下で地山が検出された。削平が著しく、遺構・遺物は確認されなかった。

T4 計画地西南端に1.5×6.6mのトレンチを設定した。付近の基本層序は表土、圃場造成土、遺物包含層である灰褐色砂質土、暗褐色粘質土、地山である黄色砂質土面の順である。地山面は表土下35cmで確認された。遺構は東西に延びる細い溝が検出された。遺物は、包含層中より須恵器、勝間田焼、土師器等が出土している。

T5 計画地西北、1.0×4.0mのトレンチを設定した。T3が削平を受けていたため、あらたに設定した。表土直下で地山が検出された。T3同様に著しく削平を受けていた。

T6 計画地北東端に3.4×3.2mのトレンチを設定した。表土、圃場造成土を除去後すぐに地山である黄色砂質土層が現れた。地山は表土下35cmで確認され、圃場整備により大きく削平を受けている。この地山面上から柱穴多数を検出した。柱穴は灰色もしくは暗褐色を呈し、中世およびそれ以前の時期の遺構と考えられる。勝間田焼、土師器等の遺物が出土している。

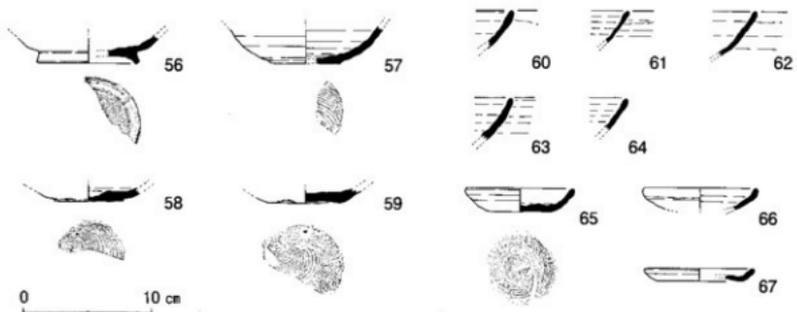
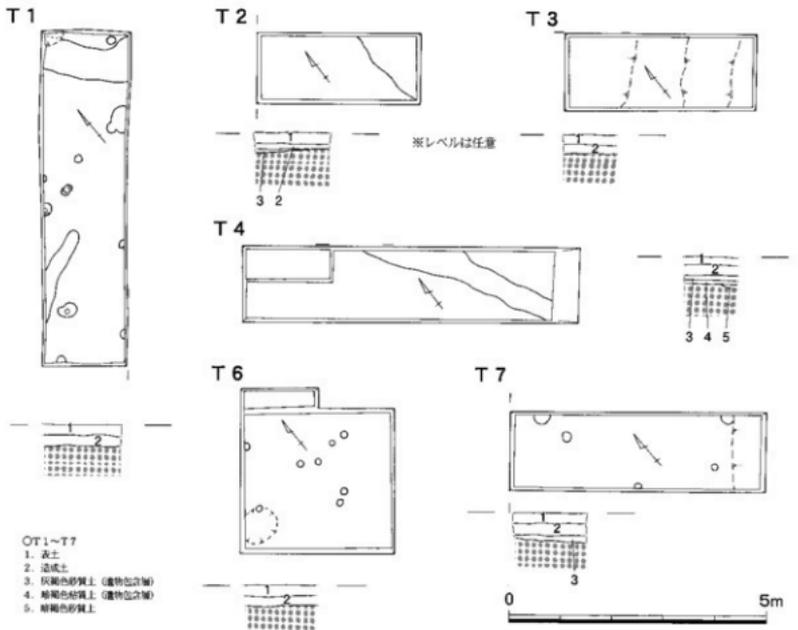
T7 計画地東南端に2.2×8.0mのトレンチを設定した。基本層序は表土、圃場造成土、遺物包含層である灰褐色砂質土、地山である黄色砂質土面である。東端はやや削平を受けている。包含層は地表下45cm、地山は50cm下で確認された。地山面上から柱穴、土壌などが検出された。遺物は、勝間田焼、土師器等が出土している。

図化できた出土遺物に、勝間田焼碗56～64、小皿65～67がある。

（調査結果）

調査により、T3、T5を除くすべてのトレンチから遺構・遺物が発見され、遺跡が広範囲に広がっていることが判明した。出土遺物では須恵器などの古墳時代の遺物のほか、勝間田焼、土師器な

どが多く古代末～中世期の集落が中心と考えられる。すぐ北側の調査区から比べると遺構密度はやや薄くなり、建物群の中心は、T1から東に展開すると考えられる。また、T3～T5でも浅い位置で地山が確認され、さらに西に遺跡が広がっていることが予想される。また、少ないものの中世より古い時期の遺構もあり、付近は断続的に集落が存在したようである。



第21図 トレンチ平面・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)

第3節 平成20年度（2008年度）実施の調査成果

1. 三反田散布地試掘調査（H20-1）

- （所在地）** 岡山県勝田郡勝央町植月中字三反田2810-1.2
（工事内容） 共同住宅建設
（調査期間） 平成20年5月14日～5月16日
（調査面積） 40㎡
（調査概要）



調査位置図 (1/40000)

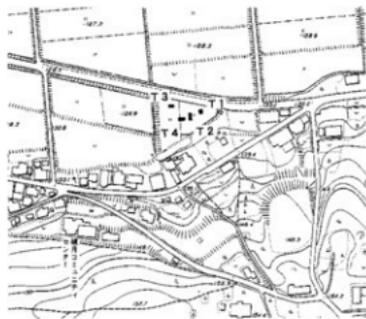
植月中地内において共同住宅の建設が計画された。予定地は周知の大谷荒神遺跡、学散布地に隣接し、地形などから遺跡の広がる可能性が考えられることから、事前に試掘調査を実施することとなった。調査では、予定地にT1～T4の4ヶ所のトレンチを設定した。重機で表土・造成土を除去後、人力により遺構面の確認・精査を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T1 計画地の東側に1.4×4.0mのトレンチを設定した。表土を除去後20cm下で地山と考えられる黄褐色砂質土が確認された。圃場整備により削平を受けており、平坦に造成されている。性格不明のピット1基を確認した。出土遺物は認められなかった。

T2 計画地中央付近に2.0×7.0mの南北に長いトレンチを設定した。表土、圃場造成土を除去後すぐに地山が確認された。圃場により地山は平坦に造成されており、さらに北端は大きく地下げされている。地形は緩やかに北に下がり、一部に包含層と見られる黒褐色砂質土の痕跡が認められた。地山面で柱穴4基が検出された。遺構埋土は褐色砂質土、黒褐色砂質土があり、時期が異なっている。出土遺物は認められなかった。

T3 計画地北西側に1.8×2.7mのトレンチを設定した。表土、圃場整備土、旧耕作土を下げると地表下1.2mの地点で黄灰褐色砂質土の地山を確認した。地山は圃場整備以前に造成されていた。遺構・遺物は確認されなかった。

T4 T3の西側に2.5×6.0mの東西に長いトレンチを設定した。表土、圃場整備造成土を除去後すぐに地山が確認された。圃場により地山は平坦に造成されている。さらに西端は大きく地下げされ、T2からの削平範囲が続くようである。地形は緩やかに北西に下がり、削平を免れた包含層と見られる黒褐色砂質土を確認した。地山面で柱穴4基、溝等が検出された。T3同様、遺構埋土は褐色砂質土、黒褐色砂質土がある。出土遺物では、溝から土師器片が確認された。

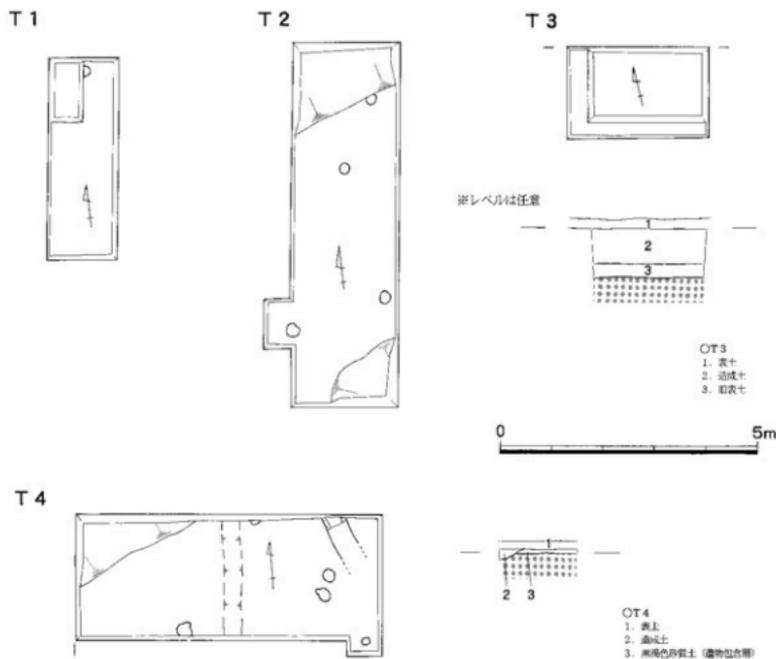


第22図 トレンチ位置図 (1/5000)

（調査結果）

調査の結果、特にT2、T4からまとまって遺構が発見され、丘陵の先端部周辺に新規の遺跡の存在が確認された。遺物は土師器が出土しているため、詳細な時期は不明であるが、古墳～平安時代と考えられる。

今回の予定地では圃場整備により山側を削平して谷側へ土を押し出すなどの削平が著しく、削平を免れた丘陵先端部付近に部分的に遺跡が残存しているようである。今回の調査成果により、付近に広がる緩やかな丘陵北斜面側にも多くの遺跡が存在する可能性が高くなった。



第23図 トレンチ平面・断面図 (1/100)

2. 覆土居散布地確認調査 (H20-2)

(所在地) 岡山県勝田郡勝央町東吉田952-1

(工事内容) 道路改良

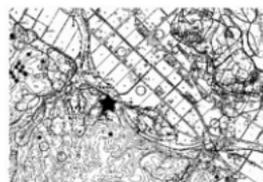
(調査期間) 平成20年6月10日～6月13日

(調査面積) 約48㎡

(調査概要)

勝央町東吉田地内において町道東吉田畑屋線の改良工事が計画された。予定地内は周知の覆土居散布地に該当することから、事前の確認調査を実施することとなった。結果を基に再度協議を行うこととなった。計画予定地に3ヶ所のトレンチを設定した。すべて人力により表土、包含層を掘削し、遺構検出、掘削、出土遺物の採取を行った。以下各トレンチの調査概要を述べる。

T1 予定地北端に25×13mのトレンチを設定した。基本層序は表土、黄褐色砂質土、地山の順で



調査位置図 (1/40000)

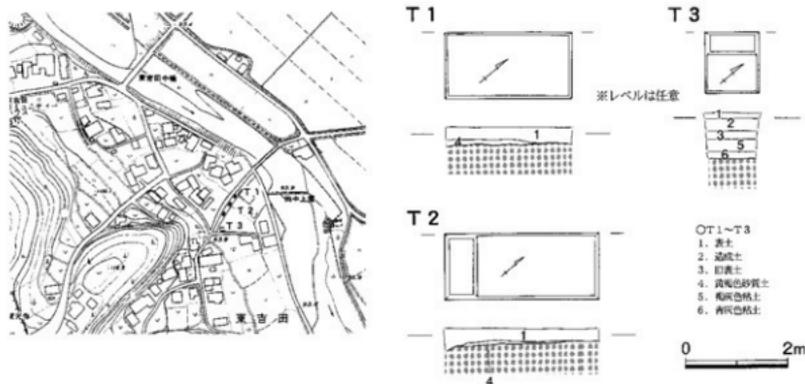
ある。黄褐色砂質土は比較的締まった層である。地山は地表下30cmで確認され、川原石を含む礫層である。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T2 予定地中央付近に3.0×1.3mのトレンチを設定した。T1同様、基本層序は表土、黄褐色砂質土、地山の順である。地山は地表下20～30cmで確認され、南に向けてやや下がっていく状況である。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T3 予定地南付近に1.0×1.2mのトレンチを設定した。層序はT1、T2とは全く異なり、表土、造成土、旧表土、青色系粘質土、地山の順である。地山は地表下90cmの深い位置で確認され、砂礫層である。遺構・遺物ともに確認されなかった。

〔調査結果〕

確認調査の結果、トレンチ3ヶ所共に遺構・遺物は確認されなかった。周辺は、滝川の氾濫原にあたり、T1、T2は浅い位置で地山が確認され、自然堤防のような立地である。T3は旧流路と見られ、湿地のような状況であり、今回の予定地には遺跡は確認されなかった。南側の丘陵裾に一段高い段丘面があり、南側に遺跡が存在すると思われる。



第24図 トレンチ位置図 (1/5000)・平面・断面図 (1/100)

3. 前高下散布地確認調査 (H20-3)

- (所在地) 岡山県勝田郡勝央町植月北3219ほか
 (工事内容) 道路改良
 (調査期間) 平成20年7月15日～7月25日
 (調査面積) 約60㎡
 (調査概要)



調査位置図 (1/40000)

勝央町植月北地内において農道鳥羽野線の改良工事が計画された。予定地内は周知の前高下散布地に該当することから、事前の確認調査を実施することとなった。計画予定地は南に延びる丘陵の尾根部から東斜面にまたがり、丘陵の頂上付近に2ヶ所(T1～T2)、東斜面に3ヶ所(T3～T5)を設定した。重機により表土を除去後、人力により包含層を掘削、遺構検出、掘削、出土遺物の採取を

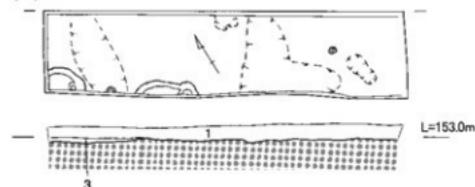
行った。以下では、各トレンチの調査概要を述べる。

T 1 丘陵平坦部に7.0×1.6mのトレンチを設定した。表土下直ぐに地山である黄色砂質土が確認され、農地開発により削平を受けている。西端付近では、遺物包含層と見られる黒灰色砂質層が残存している。遺構では、近世～現代と見られる墓が2基確認されたが、明確な遺構は確認されなかった。遺物では、弥生土器が少量出土している。

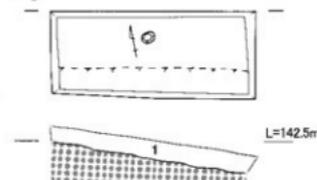
T 2 丘陵平坦部に10.0×2.5mのトレンチを設定した。T 1 同様に表土下直ぐに地山が確認され、



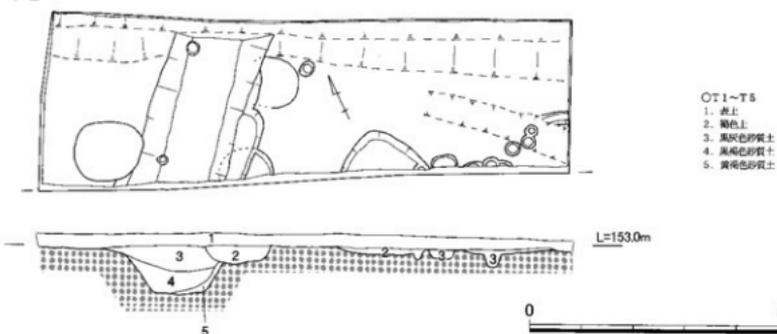
T 1



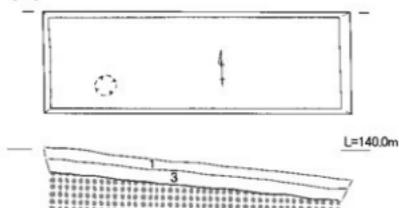
T 3



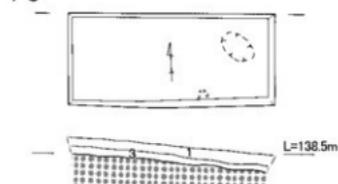
T 2



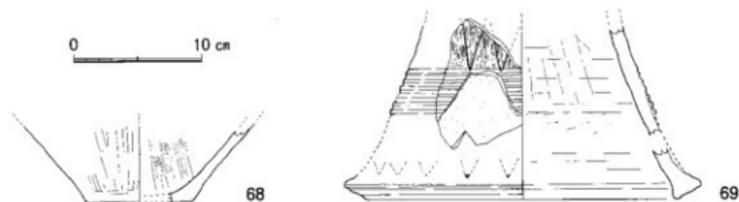
T 4



T 5



第25図 トレンチ位置図 (1/5000)・平面・断面図 (1/100)



第26図 出土土器（1/4）

削平が著しい。遺構では、弥生時代の住居に伴うと見られる柱穴のほか、大溝が確認された。大溝は直線的に伸び、長さ3m以上、幅2mを測る。断面は逆台形で、底面は平坦である。また底面中央で柱穴が2基確認された。出土遺物では、大溝を中心に弥生土器が比較的多く出土しており、特徴から弥生時代後期のものと考えられる。その他、近世～現代と見られる墓が4基確認された。

T 3 斜面部に4.0×1.7mのトレンチを設定した。表土下直ぐに地山が確認された。付近は農地開発により大きく削平を受けている。遺構は柱穴が1基確認されたのみである。出土遺物では弥生土器片がわずかに出土した。

T 4 斜面部に6.0×2.0mのトレンチを設定した。表土下で黒灰色砂質層が確認され、さらに30cm下で地山が確認された。現地地形と同様、なだらかな斜面地形を呈する。明確な遺構はなく、出土遺物も確認されなかった。

T 5 斜面部に4.0×1.8mのトレンチを設定した。表土下で黒灰色砂質層が確認され、さらに20cm下で地山が確認された。現地地形と同様になだらかな斜面地形を呈する。明確な遺構はなく、出土遺物も確認されなかった。

図化できた出土遺物は、弥生土器壺**68**、器台**69**がある。これらはT 2の包含層から出土したものである。

（調査結果）

5ヶ所の確認調査を実施した。丘陵平坦部ではT 2を中心に弥生時代の遺構・遺物が確認された。隣接するT 1では遺物が確認されたが、遺構はなく密度が薄かったか削平されたものと考えられる。斜面ではT 3で柱穴が確認された。T 4～T 5は、クロボク層は残存していたが、出土遺物はなく、斜面でも水田に近い範囲に集落は存在しないようである。これらのことから、丘陵頂上から斜面にかかる範囲には弥生時代の集落が広がっていると考えられる。

4. 大澤散布地確認調査（H20-4）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町植月中2148-1

（工事内容） 個人住宅建築

（調査期間） 平成20年7月16日

（調査面積） 約30㎡

（調査概要）

植月中地内において個人住宅の建設が計画された。予定地内は周知の大澤散布地に該当することか



調査位置図（1/40000）

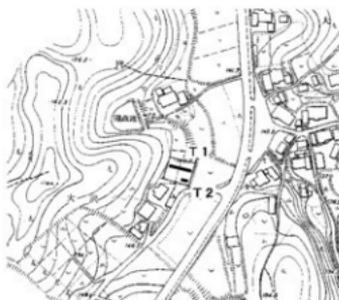
ら、事前の確認調査を実施することとなった。調査は計画予定地の斜面に2ヶ所のトレンチを設定した。重機により表土を除去後、人力で遺構検出、掘削、出土遺物の採取を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T 1 予定地中央に17.0×15mのトレンチを設定した。基本層序は表土、褐色砂質土、地山の順である。地山は地表下30cmで確認された。全体に削平を受けており、谷側にのみ褐色砂質土が認められた。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 2 予定地中央付近に5.6×12mのトレンチを設定した。層序はT 1と同様に地山は地表下20cmで確認された。遺構・遺物ともに確認されなかった。

(調査結果)

確認調査の結果、今回の予定地には遺構・遺物は確認されなかった。遺跡の範囲は丘陵の頂上付近までと考えられる。



第27図 トレンチ位置図 (1/5000)

5. 平坑散布地試掘調査 (H20-5)

(所在地) 岡山県勝田郡勝安町勝間田字平坑68-1

(工事内容) 共同住宅建設

(調査期間) 平成20年8月6日～8月8日

(調査面積) 21㎡

(調査概要)

勝間田地内において共同住宅の建設が計画された。予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地には含まれていないが、付近一帯の遺跡の状況が不明なことから、試掘調査を実施することとなった。東からT 1～T 3の3ヶ所のトレンチを設定し、基本的に重機で表土・造成土を除去、人力により遺構面の確認・精査を行った。以下、各トレンチの概要を述べる。

T 1 計画範囲の西端に3.5×14mのトレンチを設定した。基本層序は、表土、造成土、暗灰色粘質土層、暗灰色砂礫層、青灰色粘質土層、青灰色粘質土層、地山の順である。地山は、砂礫層である。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 2 計画範囲の中央に4.6×1.6mのトレンチを設定した。基本層序は、表土、造成土、灰褐色粘質土層、黒灰色粘質土層、黄灰色粘質土層、地山の順である。地山は、砂礫層である。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T 3 計画範囲の西端に4.6×2.0mのトレンチを設定した。基本層序は、表土、造成土、灰褐色粘質土層、黒灰粘質土層、灰褐色粘砂土層、地山の順である。地山



調査位置図 (1/40000)

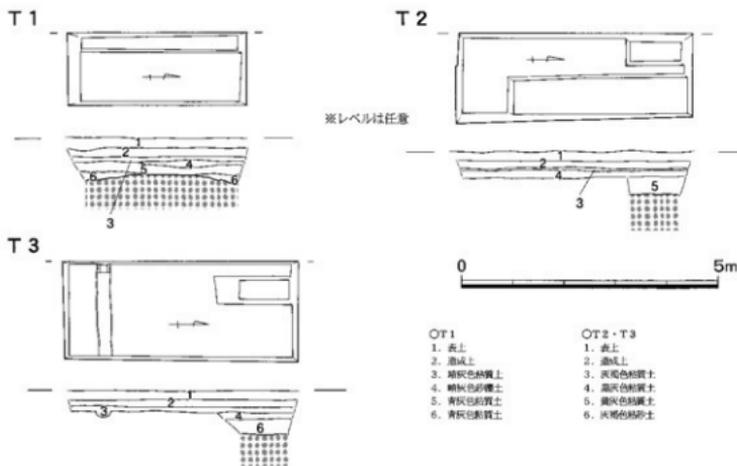


第28図 トレンチ位置図 (1/5000)

は、砂礫層である。ここでは、黒灰粘質土層面において、1条の溝が確認された。東西に直線的に延び、幅20cm、深さ5cmを測る。埋土は灰褐色粘質土である。遺物は確認されなかった。

（調査結果）

調査の結果、計画地西端T3付近において、溝が1条発見され、密度は低いものの遺跡の一部が発見された。T2、T3と同様の堆積層が認められ、ある時期には土地が安定し、集落が存在した可能性はある。しかしながら、遺物の出土もなく、遺構の密度も低いことから、付近一帯は頻繁に河川の氾濫があった不安定な土地と考えられる。



第29図 トレンチ平面・断面図 (1/100)

6. 藤ヶ瀬遺跡確認調査（H20-6）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町黒土字藤ヶ瀬475-9

（工事内容） 共同住宅建設

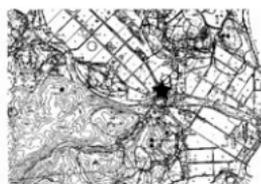
（調査期間） 平成20年10月20日～10月22日

（調査面積） 24㎡

（調査概要）

勝央町黒土地内において共同住宅の建設が計画された。予定地は周知の藤ヶ瀬遺跡に該当することから、事前の確認調査を実施することとなった。調査では、計画範囲内全域にT1～T4の4ヶ所のトレンチを設定した。重機で表土・造成土を除去後、人力により遺構面の確認・精査を行った。以下、各トレンチの調査概要を述べる。

T1 計画範囲の東端角に1.8×6.3mのトレンチを設定した。基本層序は、表土、圍場造成土、灰褐色粘質土、黒色粘質土、地山の順である。地山は、北側では暗褐色砂礫層、南側では黄褐色粘質土である。20cm下で検出された黒色粘質土面において南北に延びる溝が1条確認された。幅1m、深さ30



調査位置図 (1/40000)

cmを測り調査区外に延びている。埋土は灰褐色砂質土である。出土遺物は確認されていないが、埋土から中世期のものと考えられる。

T2 計画範囲南端に1.8×2.5mのトレンチを設定した。ここでは表土、圃場造成土直下で地山が検出された。地山は黄褐色砂質土で、表土から50cmの深さを測る。遺構・遺物ともに確認されなかった。

T3 計画範囲北端に3.8×1.8mのトレンチを設定した。基本層序は、表土、圃場造成土、黒灰色粘質土、地山の順である。地山は砂礫層である。圃場による削平が著しく地層が乱れている。遺構・遺物は確認されなかった。

T4 計画範囲西端角に1.4×1.0mのトレンチを設定した。基本層序は、表土、圃場造成土、地山の順である。地山は黄褐色砂質土で、表土から40cmの深さを測る。地山は分層され、20cm下で黒褐色砂質土、さらに20cm下で砂礫層となる。ここでは遺構・遺物ともに確認されなかった。

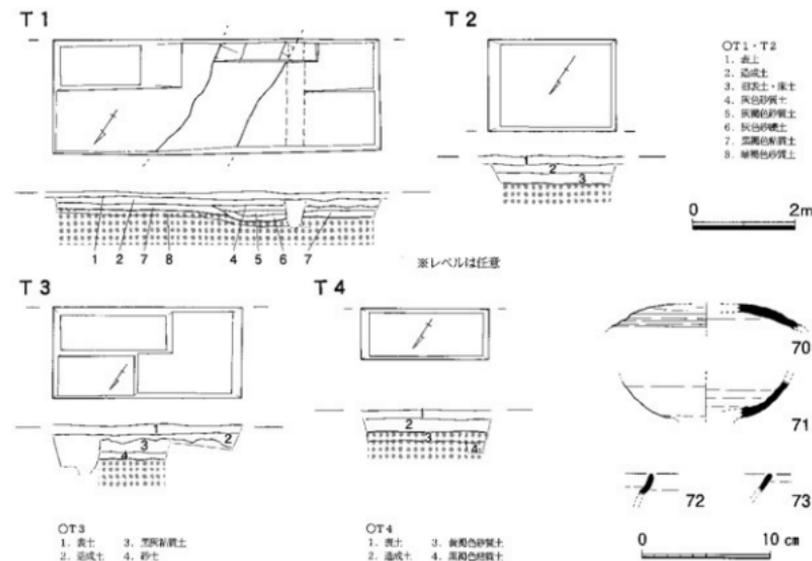
図化できた出土遺物に須恵器では高杯の蓋70と身71、勝間田焼杯72・73がある。

(調査結果)

調査の結果、T1において南北に延びる溝が検出された。地山が徐々に南に下がっていくことや、南には澁川が迫っていることなどから、この付近が南に張り出した微高地の先端付近と考えられる。削平によりT2～T4では遺構は確認されなかったが、付近に遺跡が広がる可能性が高い。出土遺物は少ないが、およそ古代末～中世期の集落が広がっていると考えられる。



第30図 トレンチ位置図 (1/5000)



第31図 トレンチ平面・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)

7. 天王散布地確認調査（H20-7）

（所在地） 岡山県勝田郡勝央町岡字天王1271
 （工事内容） 道路改良
 （調査期間） 平成20年11月12日～11月18日
 （調査面積） 26㎡
 （調査概要）



調査位置図 (1/40000)

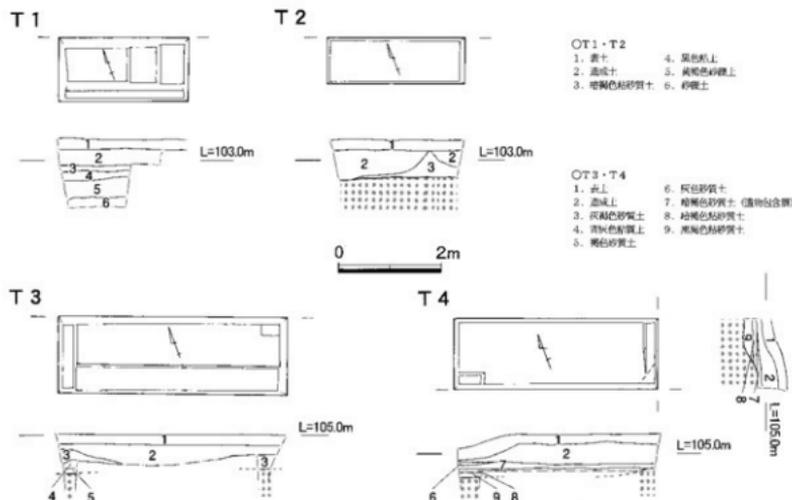
勝央町岡地区内において町道岡本線の改良工事が計画された。予定地は周知の天王散布地に該当するため、事前の確認調査を実施することとなった。今年度工事予定範囲内にT1～T6の6ヶ所のトレンチを設定した。重機で表土・造成土を除去後、人力により遺構面の確認・精査を行った。以下、各トレンチの調査概要を述べる。

T1 計画範囲西端に2.5×1.2mのトレンチを設定した。基本層序は表土、圃場造成土、暗褐色粘砂土、黒色粘質土、黄褐色砂礫土、砂礫層の順である。地表下130cmで砂礫層に達する。ここでは遺構・遺物ともに確認されなかった。

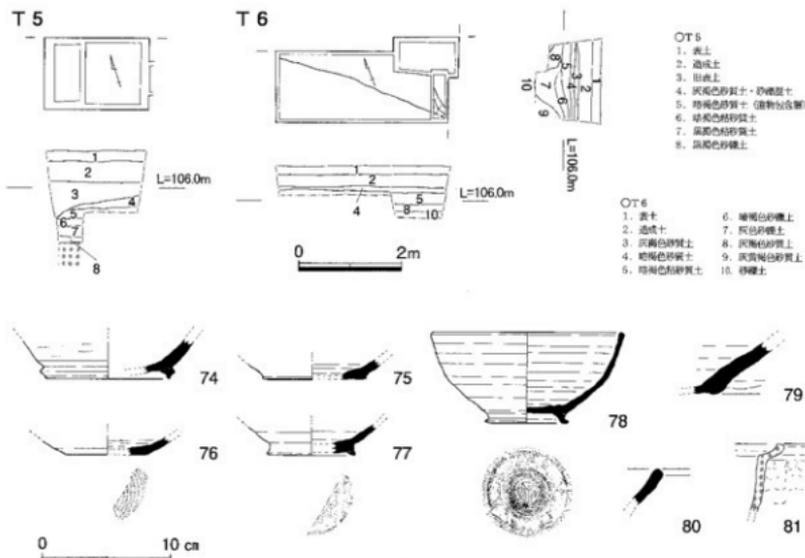
T2 T1と同じ水田の東側に2.6×1.0mのトレンチを設定した。基本層序は表土、圃場造成土、暗灰色粘砂質土、地山と見られる黄灰色粘砂土の順である。地表下70cmで地山に達する。ここでは遺構・遺物ともに確認されなかった。



第32図 トレンチ位置図 (1/5000)



第33図 トレンチ平面・断面図 (1/100)



第34図 トレンチ平面・断面図 (1/100)・出土土器 (1/4)

T3 一段高くなった水田の西端に4.5×1.5mのトレンチを設定した。基本層序は表土、圃場造成土、灰褐色砂質土、青灰色粘土、褐色砂質土、地山と見られる礫層の順である。地表下70cmで地山に達する。後世の削平が著しく、包含層は失われている。遺構は確認されなかった。遺物では、須恵器、土師器、勝間田焼が少量出土している。

T4 T3と同一水田の東端に4.0×1.4mのトレンチを設定した。基本層序は表土、圃場造成土、灰色砂質土、暗褐色砂質土、暗褐色粘砂土、黒褐色粘砂土、地山である礫層の順である。東側では水田下30cmで地山に達し、北西方向に地山が下がっていく。比較的安定した暗褐色粘砂土面で精査したが遺構は確認されなかった。遺物では、須恵器、土師器、勝間田焼が多く出土している。

T5 さらに一段高くなった水田の西端に2.0×1.4mのトレンチを設定した。基本層序は表土、造成土・旧表土、灰褐色砂質土、暗褐色砂質土、暗褐色粘砂土、黒褐色粘砂土、黒褐色砂礫土、地山と見られる礫層の順である。地表下1.8cmで地山に達する。暗褐色粘砂土面で精査したが遺構は確認されなかった。遺物では、暗褐色砂質土層から須恵器、土師器、勝間田焼が出土している。

T6 T5と同一水田の東端に3.6×1.4mのトレンチを設定した。トレンチ西側での基本層序は表土、圃場造成土、灰褐色砂質土、暗褐色砂質土、遺構面と見られる黄褐色砂質土の順である。中央を境に北半分は北西方向にのびる流路状遺構の一部と見られ、東断面での層序は暗褐色粘砂土、暗褐色砂混土、灰色礫層、灰黄褐色砂質、地山とみられる礫層の順である。遺物では、暗褐色砂質土層から、須恵器、土師器、勝間田焼が出土している。

図化できた出土遺物に、須恵器鉢74、勝間田焼では碗75~78、こね鉢79・80、瓦質土器では羽釜81がある。

（調査結果）

調査の結果、台地上のT4～T6では遺物包含層が確認され、T6においては流路状遺構も確認された。T3では浅い位置で地山が確認されたことから、このあたりまで台地が張り出し、地形に沿う形で遺跡が広がっていると推定できる。今回は狭い範囲の調査のため、明確な遺構は確認されなかったが、周辺地形から、さらに東の高台や南東側に集落が存在する可能性が高くなった。出土遺物では古墳時代～中世期のものが多く、断続的にこの時期の集落が存在したようである。

写 真 图 版



土居遺跡 (18-1) 遠景 (西から)



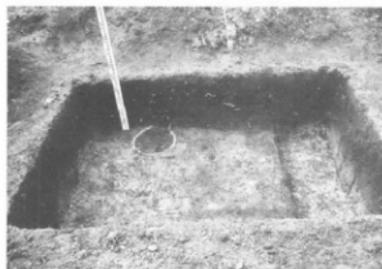
土居遺跡 (18-1) T1 (東から)



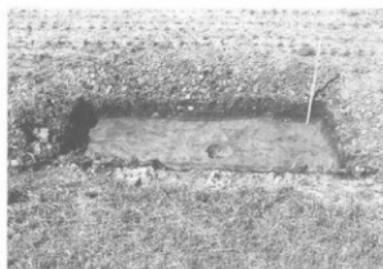
家ノ下散布地 遠景 (南から)



家ノ下散布地 T1 (南から)



家ノ下散布地 T2 (東から)



家ノ下散布地 T3 (東から)



家ノ下散布地 T4 (南から)



家ノ下散布地 T5 (北から)



土居遺跡 (H18-3) 遠景 (北から)



土居遺跡 (H18-3) T1 (北から)



土居遺跡 (H18-3) T2 (東から)



土居遺跡 (H18-3) T3 (南から)



土居遺跡 (H18-3) T4 (西から)



八幡散布地 遠景 (西から)



八幡散布地 トレンチ (南から)



上河原散布地 遠景 (西から)



上河原散布地 T1 (南から)



上河原散布地 T2 (南から)



上河原散布地 T3 (南から)



上河原散布地 T4 (西から)



中核工業団地内A地点 遠景 (西から)



中核工業団地内A地点 トレンチ (西から)



石仏上遺跡 調査前風景 (東から)



石仏上遺跡 T4 (南から)



石仏上遺跡 T5 (南から)



金仙寺散布地 遠景 (東から)



金仙寺散布地 T1 (南から)



金仙寺散布地 T2 (北から)



土居遺跡 (H19-4) 遠景 (西から)



土居遺跡 (H19-4) T1 (西から)



土居遺跡 (H19-4) T2 (東から)



土居遺跡 (H19-4) T3 (東から)



舞台裏遺跡 T 1 (南から)



舞台裏遺跡 T 2 (南から)



舞台裏遺跡 T 3 (南から)



家ノ下散布地 T 6 (南から)



家ノ下散布地 T 7 (南から)



藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) 遠景 (東から)



藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T 1 (南から)



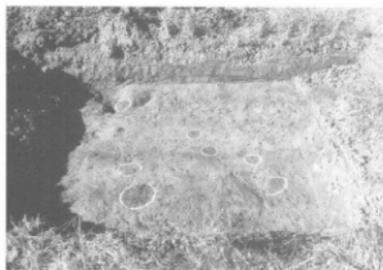
藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T 2 (東から)



藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T3 (東から)



藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T4 (東から)



藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T6 (東から)



藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) T7 (東から)



三反田散布地 遠景 (西から)



三反田散布地 T1 (北から)



三反田散布地 T2 (北から)



三反田散布地 T3 (北から)



三反田散布地 T4 (東から)



榎土居散布地 T1 (南から)



榎土居散布地 T2 (南から)



榎土居散布地 T3 (南から)



前高下散布地 T2 付近遠景 (東から)



前高下散布地 T1 (西から)



前高下散布地 T2 (東から)



前高下散布地 T3 付近遠景 (東から)



前高下散布地 T3 (東から)



前高下散布地 T4 (東から)



前高下散布地 T5 (東から)



大澤散布地 遠景 (東から)



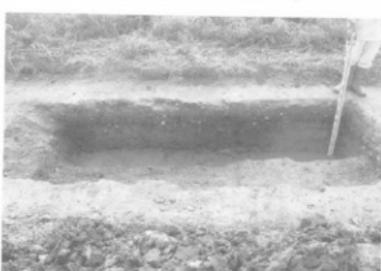
大澤散布地 T1 (東から)



大澤散布地 T2 (東から)



平埴散布地 調査風景 (東から)



平埴散布地 T1 (東から)



平坑散布地 T2 (南から)



平坑散布地 T3 (南から)



藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) 遠景 (南から)



藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) T1 (南から)



藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) T2 (南から)



藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) T3 (西から)



藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) T4 (南から)



天王散布地 遠景 (西から)



天王散布地 T1 (南から)



天王散布地 T2 (東から)



天王散布地 T3 (東から)



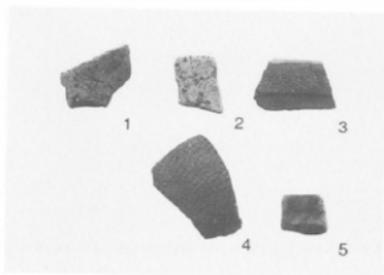
天王散布地 T4 (西から)



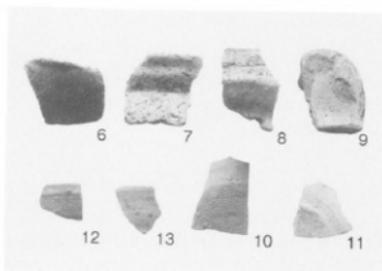
天王散布地 T5 (南から)



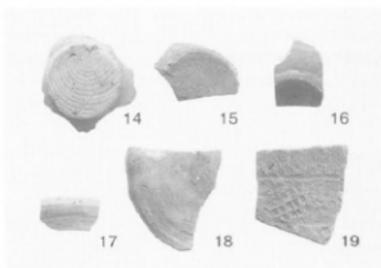
天王散布地 T6 (西から)



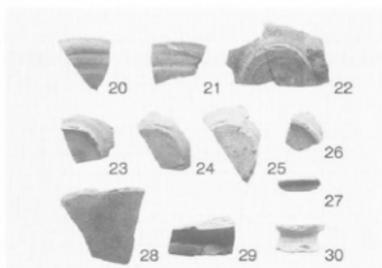
家ノ下散布地出土遺物



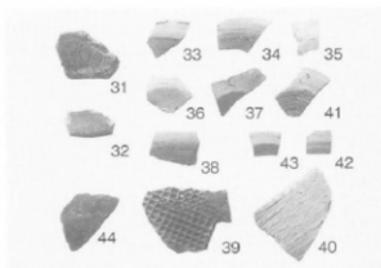
土居遺跡 (H18-3) 出土遺物



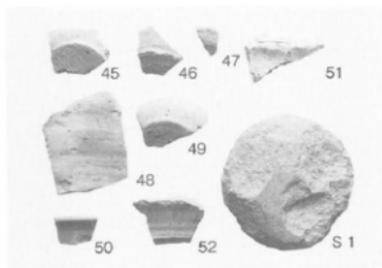
上河原散布地出土遺物



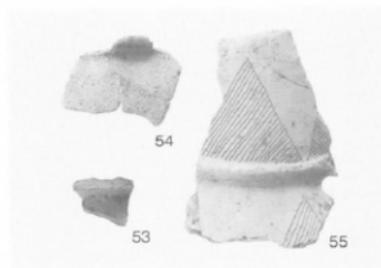
石仏上遺跡出土遺物



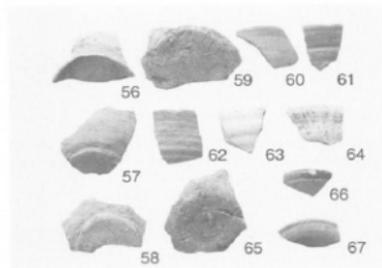
金仙寺散布地出土遺物



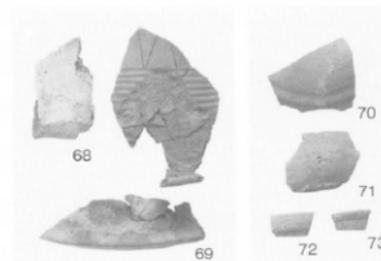
土居遺跡 (H19-4) 出土遺物



舞台裏遺跡出土遺物



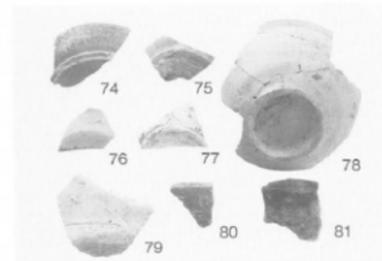
藤ヶ瀬遺跡 (H19-7) 出土遺物



前高下散布地出土遺物



藤ヶ瀬遺跡 (H20-6) 出土遺物



天王散布地出土遺物

報告書抄録

ふりがな	しょうおうちょうないいせきしくつかくにんちょうさほうこくしょ
書名	勝央町内遺跡試掘確認調査報告書（平成18年度～平成20年度）
シリーズ名	勝央町文化財調査報告
シリーズ番号	9
編著者名	岡 正 雄
編集機関	勝央町教育委員会
所在地	岡山県勝田郡勝央町勝岡田200-1
発行年月日	2010年3月31日

所取遺跡	ふりがな	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	面積 ㎡	調査原因
		岡山県勝田郡勝央町						
土居遺跡	黒土3191ほか	33622	744	35 01 39	134 08 02	2006.8	40	民間・宅地造成
家ノ下散布地	榎月北2664-1ほか	33622	67	35 04 13	134 06 26	2006.9～12	30	公共・道路
土居遺跡	黒土337-1ほか	33622	744	35 01 39	134 08 00	2006.11	62	民間・宅地造成
八幡散布地	勝岡田468-1	33622	231	35 02 14	134 06 40	2007.1	23	民間・通信設備
上河原散布地	黒土43-1	33622	738	35 01 25	134 07 48	2007.2	132	民間・福祉施設建設
中井工業団地A北遺跡	太平台43	33622	184	35 02 30	134 06 54	2007.4	48	公共・体育施設整備
石仏上遺跡	勝岡田191ほか	33622	233	35 02 15	134 07 12	2007.5～6	38	公共・学校建設
金仙寺散布地	黒土1421ほか	33622	740	35 01 42	134 07 51	2007.9	48	民間・共同住宅
土居遺跡	黒土295-1	33622	744	35 01 35	134 07 58	2007.10	19	民間・共同住宅
舞台裏遺跡	榎月北3494	33622	53	35 04 34	134 07 10	2007.11	28	民間・個人住宅
家ノ下散布地	榎月北2664-1ほか	33622	67	35 04 16	134 06 27	2007.11	10	公共・道路
藤ヶ瀬遺跡	黒土465-3	33622	748	35 01 23	134 08 03	2007.11～12	47	民間・共同住宅
三反田散布地	榎月中2810-1,2	33622		35 04 06	134 07 17	2008.5	40	民間・共同住宅
覆土居散布地	東古田952-1	33622	317	35 01 27	134 07 30	2008.6	48	公共・道路
前高下散布地	榎月北32191ほか	33622	72	35 04 28	134 07 16	2008.7	60	公共・道路
大澤散布地	榎月中2148-1	33622	161	35 03 23	134 06 25	2008.7	30	民間・個人住宅
平埜散布地	勝岡田68-1	33622		35 02 08	134 07 20	2008.8	21	民間・共同住宅
藤ヶ瀬遺跡	黒土475-9	33622	748	35 01 19	134 08 05	2008.10	24	民間・共同住宅
天王散布地	岡1271ほか	33622	713	35 02 13	134 07 32	2008.11	26	公共・道路
所取遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主 な 遺 物		特 記 事 項		
土居遺跡	集落跡	古墳～中世	柱穴、土壇	須恵器、土師器				
家ノ下散布地	散布地	弥生～中世	柱穴、杭、溝	弥生土器、須恵器、瓦質土器				
土居遺跡	集落跡	弥生～中世	住居跡、柱穴	弥生土器、須恵器、勝岡田焼				
八幡散布地	散布地							
上河原散布地	散布地	古墳、中世	柱穴、流路	須恵器、土師器、勝岡田焼				
中井工業団地A北遺跡	集落跡							
石仏上遺跡	集落跡	中世	溝	勝岡田焼、土師器、瓦質土器				
金仙寺散布地	散布地	弥生～中世	造成面、土壇	弥生土器、須恵器、勝岡田焼				
土居遺跡	集落跡	弥生～中世	柱穴、土壇、溝	勝岡田焼、青磁、石器				
舞台裏遺跡	集落跡	弥生	柱穴	弥生土器、須恵器				
家ノ下散布地	散布地	弥生～古墳	土壇、流路	弥生土器、須恵器				
藤ヶ瀬遺跡	集落跡	古墳～近世	柱穴、溝	須恵器、土師器、勝岡田焼				
三反田散布地	散布地	古墳～平安	柱穴、溝	土師器				
覆土居散布地	散布地							
前高下散布地	散布地	弥生～近世	柱穴、溝、近世墓	弥生土器				
大澤散布地	散布地							
平埜散布地	散布地	中世	溝					
藤ヶ瀬遺跡	集落跡	古墳～中世	溝	須恵器、勝岡田焼				
天王散布地	散布地	古墳～中世	流路	須恵器、勝岡田焼、瓦質土器				

印刷データ

紙 質 表 紙 = マットボスト153kg
本 文 = シルバーダイヤ76.5kg
写真図版 = シルバーダイヤ76.5kg

文 字 モリサワ書体 14Q・明朝・正体

本文図面 Macintosh

写 真 カラー = 4色分解
本文写真 = カラースキヤナー175機
写真図版 = モノクロスキヤナー175機

勝央町文化財調査報告 9

勝央町内遺跡 試掘確認調査報告書

(平成18年度～平成20年度)

2010年3月31日発行

編集・発行 勝央町教育委員会
〒709-4316 岡山県勝田郡勝央町勝間田200-1
TEL (0868-38-3111)

印刷 株式会社廣陽本社
〒708-0052 岡山県津山市田町22
TEL (0868-22-7221)

